

東アジア社会における諺と
慣用句の研究

甲南大学総合研究所

叢書 145

目 次

諺及び慣用句の成立と派生

—日韓の事例を中心に—

金 泰虎 (1)

パンソリ「春香伝」中の諺

—その使用と変容—

柏原 卓 (27)

ことわざ、故事成語、慣用句・表現、四字・三字熟語について

—均衡コーパスと日経テレコンを使用した分析、

および理解表現として日本語学習で扱うための提案—

平井 一樹 (47)

諺及び慣用句の成立と派生

—日韓の事例を中心に—

金 泰虎

キーワード：諺、慣用句、故事成語、隠喩、歴史性、普遍化

[目次]

はじめに

1. 諺と慣用句の成立と変容
2. 諺と慣用句の成立契機
3. 諺と慣用句の普遍性

おわりに

はじめに

本稿では、日韓社会で使われている諺や慣用句の中で発生と派生の時期を特定することができるものを中心に、その成立過程について考察することを目的とする。その中で諺や慣用句は、いかに社会に提示（発生）され、普遍化して定着するのか、とりわけ全国にわたって普遍化せず、一定の地域だけに限定して通用される具体的な事例も取り上げ、諺や慣用句の発生・拡散・普遍化・成立・定着という一連の過程を追究する。

諺や慣用句は社会に定着した後、化石のように存在する不易性のもではなく、時代の変遷に応じて言語が変貌を成し遂げると同様、同じ意味の新たなものが派生する「歴史性」をもつ。ここでの歴史性とは、従来の諺や慣用句に代わり得る同じ意味の新たなものが派生して成立するという意味である。

従来、日韓社会の諺や慣用句をめぐる発生や歴史性という観点に基づいての分析はほとんど行われていない。その理由は発生及び派生、そして成立の時期

が特定できる諺や慣用句が多くないからである。諺や慣用句の発生及び歴史性による派生を考察するためには、時期を特定することは欠かせないのである。その時期の特定には、諺や慣用句に用いられる素材や記録、そして出来事の経緯に関わることを手掛かりにして分析を行う。

本稿では、日韓社会における諺や慣用句の発生と歴史性による派生という観点に基づき、諺や慣用句に取り入れている素材、それと関連する歴史や出来事の時期を推測することができるものを中心にして分析を行う。そこで、諺や慣用句の発生と派生から定着までの一連の過程を明確にする。その中で社会に提示された諺や慣用句に繋がるものが拡散し普遍化するという過程において広範囲の社会には普遍化に至らず、一定の地域だけに通用される諺や慣用句も踏まえて追究を行う。

1. 諺と慣用句の成立と変容

1-1. 日韓の諺と社会

日本の『古事記』と『日本書紀』には「雉の頓使い（きぎしのひたづかい）」、すなわち「使いに行って帰ってこない雉」という内容が記載されている¹⁾。前者の『古事記』は、和銅5（712）年に太安万侶（?～723）が編纂した日本最古の歴史書である。そして、後者の『日本書紀』は『古事記』を編纂した8年後の養老4（720）年に舎人親王（676～735）などが編纂した歴史書である。

この『古事記』と『日本書紀』に収録されている「雉の頓使い」の背景には、日本の天孫降臨という神話に関わっている。天孫が降臨をする前、天から地上を偵察させるため「天若日子（あめわかひこ）」を「葦原中国（あしはらのなかつくに）」に派遣したが、天若日子は葦原中国の主人である「大国主命（おおくにぬしのみこと）」の娘である「下照姫（したてるひめ）」と結婚し帰ってこなかった。そこで、天から再び使者の「雉の天の鳴女（きぎしのあまのなきめ）」を地上に遣わした。天若日子が矢で雉を射たところ、矢が雉を貫通して天にまで達した。天からその矢を地上に投げ返したら矢が天若日子の胸に当たり、彼が死んだという内容である²⁾。そこから日本では「雉の頓使い」というのは、「使いに行って帰ってこない」という意味の諺として成立したのである。

要するに、「雉の頓使い」は天孫降臨という内容をもって権力者を神格化する過程で発生したと言えよう。この内容は『古事記』を編纂する以前、つまり712年の当時の人々に広く知られていたことを収録したのか、それとも編纂の過程で作られた記録なのか、定かではない。

一方、韓国社会では「使いに行行って帰ってこない」の意味として「咸興差使」という諺を用いる³⁾。この諺の起源は朝鮮王朝を開創した太祖の李成桂(1335~1408)が末子の李芳碩(?~1398)を王位の継承者として太子に据えた。それに不満を抱いた5男の李芳遠(1367~1422)は、1398年に王子の乱を起こし、李成桂と朝鮮王朝の開国に尽力した功臣たちを殺した⁴⁾。そこで、心を痛めた李成桂は1398年に次男である定宗の李芳果(1357~1419)に王位を譲り、故郷の咸興(現在の朝鮮民主主義人民共和国の咸鏡南道)に戻ったということから始まる。

その2年後の1400年には、さらに定宗が弟である太宗の李芳遠に譲位をした。即位した太宗は父の李成桂を漢陽(今のソウル)に還宮させるため、数回に亘って使いの「差使」を咸興に送った。しかし、李成桂はすべての差使を帰らせなかったということから「咸興差使」の諺が発生した。つまり、諺の発生に関わる経緯が明確であれば、その時期を推測することができる。

このように、日韓社会における諺の中では発生及び歴史性による派生の時期を推測することができるものがある。その推測ができる諺や慣用句は記録や背景の経緯、そして出来事と深い関わりをもっているため、諺や慣用句の発生及び歴史性による派生、また成立過程を追究する上で重要な手掛かりになる。

1-2. 日韓社会における諺の歴史性

日韓社会の諺と慣用句は化石のように、成立したものだけが固定化されて通用するのではなく、同じ意味の新たな諺や慣用句の歴史性による派生が起きる。この派生する新たな諺や慣用句を分析するため、その素材や背景の経緯に関連する時期を推測することができるものを中心に考察を行う。

日本社会では、既に言及してきた「使いに行行って帰ってこない」という「雉の頓使い」だけでなく、これと同じ意味として(表1)の□「鉄砲玉の使い」

という諺も用いる。『鉄砲記』によれば、鉄砲は天文 12 (1543) 年、種子島に漂着したポルトガル (Portugal) 人が伝来したと記されている⁵⁾。この『鉄砲記』は慶長 11 (1606) 年、種子島の 16 代島主である種子島久時 (1568~1612) が薩摩国の大龍寺の禅僧である南浦文之 (玄昌) (1555~1620) に編纂させた鉄砲伝来の歴史書である。

そこで、鉄砲という素材を用いる諺や慣用語の背景を把握するため、以下の (表 1) では、鉄砲を素材に取り入れている諺や慣用語を網羅する。

(表 1) 日本の鉄砲に関わる諺及び慣用語

番号	鉄砲の諺	意味合い	備考
一	入鉄砲に出女	鉄砲の所持を厳しく取り締まる	216
二	鉄砲玉の使い	行ったきり帰ってこない	483
三	鳩が豆鉄砲を食ったよう	突然の事にびっくりしきよんとする	三四七
四	肘鉄砲を食わせる	誘いや申し出を断る	デジ
五	下手な鉄砲も数撃てば当たる	たくさんやってみれば中にはまぐれで当たる	538
六	矢でも鉄砲でも飛んでこい	矢でも鉄砲でも持ってこい	五一〇
七	矢でも鉄砲でも持ってこい	どんな手段でもかかってこい	五一〇
八	闇夜の鉄砲	当たるかどうか心もとないこと	612

*備考の数字は『岩波ことわざ辞典』(岩波書店、2002年)の頁

*備考の漢数字は『日本語慣用語辞典』(東京堂出版、2005年)の頁

*参考のデジは「デジタル大辞泉 (小学館)」(『電子辞書』CASIO、2013年)

(表 1) のように、日本社会では鉄砲を素材にする諺や慣用語が多いが、このほかに語彙も多い。例えば、無鉄砲 (善悪と結果を考えずに行動すること)、鉄砲水 (突然、水が急激に流れてくること) などを挙げることができる。この諺や慣用語、ひいては語彙に鉄砲が散見されるのは、鉄砲伝来以降も日本では武家が支配をする社会であったことと深い関係があるからであろう。

これらの鉄砲を素材にした諺と慣用語、そして語彙は鉄砲の伝来以降、つまり鉄砲の伝来が契機となり発生したことに間違いはない。しかし、鉄砲の伝来後、いつ成立されたのか、その正確な時期までは明確にできない。便宜上、鉄砲の伝来をもって諺や慣用語に繋がるものが社会に提示 (発生) されたものと見なすことにする。但し、 は江戸幕府が諸街道に設けた関所で江戸への鉄砲の持ち込

み、また江戸に住まわせた諸大名の妻女が関外に出るのを厳しく取り締まったことから由来する。その取り締まりの理由は、諸大名の謀反を警戒したためである。このことを鑑みると、ミイラの成立は鉄砲の伝来から大凡1世紀後であると推測される。

次に、日本社会では「雉の頓使」に代わる「鉄砲玉の使い」のほかにも「ミイラとりがミイラになる」という諺がある。「ミイラ」は、ポルトガル語である「mirra」で鉄砲伝来以降16～17世紀の南蛮貿易を通じてポルトガル人から日本に伝来した語彙と考えられる⁶⁾。

ところで、南蛮貿易とは文字通り、南にいる蛮との交易を意味する。伝統的な中華思想は中国を取り巻く四方の諸民族を野蛮人と規定し、南の野蛮人を南蛮と見なす。日本では16世紀以降の大航海時代に入ってポルトガル人とスペイン (Spain) 人を南蛮と呼び、これらとの交易を南蛮貿易と称した。

この「鉄砲玉の使い」と「ミイラとりがミイラになる」は「雉の頓使」より、その成立の時期が遅いのは明らかである。両者は鉄砲の伝来、そして南蛮貿易によってもたらされた文化、あるいは世紀の発掘のいずれかによって派生した諺なのである。言い換えれば、「使いに行つて帰つてこない」という意味の諺は、古代日本の「雉の頓使」、16世紀以降の「鉄砲玉の使い」、さらに「ミイラとりがミイラになる」に派生してくる時系列的歴史性を持っている。要するに、「雉の頓使」に代わる新たな諺である「鉄砲玉の使い」や「ミイラとりがミイラになる」は、その発生時期が推測できるため歴史性による派生の分析に適している。

一方、韓国社会でも「使いに行つて帰つてこない」という意味の「咸興差使」のほかに、同じ意味合いの「江原道砲手」(直訳: 江原道の狩人)、「뽕 구워 먹은 소식」(直訳: 雉を焼いて食べた消息)、「終無消息」という諺がある。しかし、「뽕 구워 먹은 소식」や「終無消息」は発生と成立に繋がる手がかりとなる素材や背景に関わる経緯の時期を特定するのが難しい。

「江原道砲手」は派生の時期を推測することができるが、江原道と砲手が結合している諺である。江原道は、朝鮮時代の太宗13(1413)年に8道制を実施した後から生まれた地名である。そして、前近代の韓国社会に鉄砲が伝来され

たのは、文禄の役（1592）がきっかけである。文禄の役の際、豊臣秀吉軍の一員として朝鮮侵略に参戦した沙也可（1571～1641）が朝鮮側に投降し、鉄砲を製造する技術を伝えたとされる。その後、宣祖 27（1594）年より朝鮮は独自に鉄砲を製作した⁷⁾。ここでの砲手は、大砲を撃つ人ではなく狩りをする人であり、その意味で火縄銃（鉄砲）が伝来された後、江原道と結合して発生し成立された諺なのである。

要するに、「江原道砲手」は朝鮮時代における 8 道制の実施、そして鉄砲の伝来という 2 つの出来事が融合して派生した歴史性をもつ諺である。「江原道砲手」の背景の経緯に関する理解を助けるため、韓国の地理に関して触れる。江原道は、地形的に山が深い地域なので必然的に動物もたくさん生息しており、狩りに適している。そこで、深い山に狩りに出かけた狩人が道に迷ったりすることが多く、なかなか帰ってこないことから由来している諺である。つまり、「江原道砲手」は韓国の地理的特徴に鉄砲という出来事が加わっているが、「咸興差使」より後の時期に派生して成立した。

2. 諺と慣用句の成立契機

日韓社会の諺や慣用句は、何らかの契機さえあれば、すぐ発生したり派生したりして諺や慣用句として成立に繋がるのであろうか。

一般的に諺や慣用句として成立するためには、まず次の 3 つの契機によって社会に提示される過程が必要である。以下では、諺や慣用句に繋がるものが「社会に提示」されるということは、諺や慣用句の「発生」である。諺と慣用句に繋がるものが社会に提示され、成立に至るが、ここでも素材や背景の経緯から時期が推測できるものを中心に考察を行う。

一つ目は、社会の出来事を目撃したり、または体験したりすることの契機を通して社会に提示される。その事例として、日本では「赤信号皆で渡れば怖くない」という諺が取り上げられる⁸⁾。日本社会における交通信号は、1919 年、最初に東京上野広小路の交差点に手動式信号機が設置された⁹⁾。当時、信号機は新しく登場した文明で人々に興味を引く素材であったため諺や慣用句に繋がる素材となり、社会に提示される契機になったと言える。

一方、韓国では「비행기 태운다」(直訳：飛行機に乗せる、意識：誉めすぎる)という諺がある。元来、飛行機は1903年に米国出身のライト兄弟(Wright Brothers)、すなわち兄のウィルブル・ライト(Wilbur Wright)(1867~1912)と弟のオルビレ・ライト(Orville Wright)(1871~1948)が、世界で最初に有人飛行に成功した。この飛行機が韓国社会と韓国人に初めて姿を見せたのは、1920年にイタリア(Italy)人のアルトゥーロ・フェラリン(Arturo Ferrarin)(1895~1941)であった。彼は1920年2月14日にローマ(Roma)を出発し、コリア(Korea)半島を經由する飛行をして、同年3月31日に東京に到着した¹⁰⁾。すなわち、韓国人にとって飛行機という素材が慣用句の発生に繋がるきっかけになった。

この日韓社会の信号機や飛行機について目撃したり、体験したりすることで諺と慣用句に繋がるものが社会に提示されたのである。

二つ目は、日常生活の中で観察したり、自覚したりすることをきっかけにして社会に提示される。日本の「泣く子と地頭には勝たれぬ」という諺が事例と言えるが、泣く子と地頭の素材が結合している。日常生活の中で泣いている子供を頻繁に見ることができるが、中では親が子供を泣き止ませることができず、困ってしまう場合がある。つまり、泣く子を泣き止ませるのは容易ではないことを観察したり、自覚したりしたのである。

そして、平安時代(794~1192)中期から地頭は存在したが、武士が政権を握る鎌倉時代(1192~1333)には、本格的に在地に地頭職を任命した¹¹⁾。地頭には在地の荘園と国衙領における治安維持を担ったが、次第に在地で権力を振るう地頭が多くなった。地頭が荘園を侵略したり、勝手に年貢を取り立てたりすることが多発し、地頭が引き起こした弊害を止めることが難しいことを人々が自覚したと考える。

一方、韓国では(表2)の⑧で示しているように、「양반 도둑이 호랑이보다 무섭다」(直訳：両班泥棒が虎より怖い、意識：両班による弊害が虎より残酷で怖い)という諺が取り上げられるが、両班と虎の素材が結合している。

前近代の韓国における官僚制のもとでの両班は、官僚の文班と武班を合わせた意味である。この両班は科举制度と密接な関係がある。後周から高麗に帰化

した雙冀（?～?）の建議によって高麗の光宗9（956）年、科挙制度を導入して以来、両班という言葉が生まれた。両班が社会の特権階級に成長し、一般民衆に弊害を及ぼしたり、反感を買ったりすることが多発するのは、朝鮮時代（1392～1895）の中期以降のことである。

また、前近代の韓国社会において虎の被害、つまり「虎患」が多かったことはよく知られている。虎は童話の素材にもなり、「호랑이보다 무서운 곳감」（直訳：虎よりも怖い干し柿）という話が登場するほどである¹²⁾。

この日韓社会における泣く子や地頭、そして両班と虎のことは、当時の人々が観察したり、自覚したりしたことを通して社会に提示されるようになったのであろう。

ところで、(表1)で言及してきたように、日本は武家社会の影響で鉄砲を素材にした諺や慣用語、そして語彙が多い。一方、前近代の韓国社会、とりわけ朝鮮は両班が支配する社会だったため両班を素材にした諺や慣用語が多く成立したと考える。

以下の(表2)では、両班を素材にした諺と慣用語の一覧を示し、民衆に被害を与える存在だけではない側面も提示を行うことにする。

(表2)に基づいてみると、民衆に被害を与える悪い両班のイメージ(Image)に関わる諺や慣用語は⑦⑧⑩⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳である。しかし、両班が悪質で恐ろしい存在ではなく、むしろ自尊心があり、知識人であり、威厳を持っているという側面の諺や慣用語が多い。それは朝鮮時代の支配層で社会の中樞をなす身分であったためであると考えられる。例えば、②④⑤⑥⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳は両班の地位と関わる面子の大事さを示している。つまり、朝鮮時代における両班の姿が民衆には、面子を重視しつつ、威厳を表すものである。とりわけ、⑭「양반은 죽어도 문자 쓴다」における「文字」とは、日常生活において「書く字」（直訳）の意味ではなく「難しい文言」（意訳）の意味である。この⑭の両班は、知識を身につけている知識人であることを威張ろうとした存在だという民衆の批判である。この裏を返せば、両班は民衆に知識人として認識されたという証でもあると言えよう。

(表2) 韓国語の両班(양반)に關する諺及び慣用句

番号	韓国語の諺	直訳	意味合い	備考
①	가난한 양반 씨나랏 주무로듯 한다	貧しい両班が稲種をむむようにする	丁弊にもむむこと	七一
②	나초이 석차라도 먹어야 양반	肥り金でも食へてこそ両班	風聲が良くても食へなければならぬ	六一
③	물세 양반	頭が大きい両班	金さえあれば両班	一九
④	머리 큰 양반 발 큰 도둑놈	頭が大きい両班、足が大きい泥棒	頭が大きいと両班で足が大きければ泥棒	二〇六
⑤	수명이 대차라도 먹어야 양반이다	寿命がキムチ汁を飲むように	飯糰があっても食へなくてはならない	二〇五
⑥	양반배리고 불기 맞는다	両班を辱めて尻を叩かれる	上品な態度の人	四一七
⑦	양반 도둑이 호랑이보다 무섭다	両班の泥棒が虎より怖い	両班者に怖んで畏れる	四一七
⑧	양반도 새 끼를 굶으면 원장 못보안다	両班も三食を食へなければ味噌の味見をする	両班の醜態性	二二六
⑨	양반 못된 것이 장재가 호랑한다	出来の悪い両班が市場に行くで命合する	肌えると誰でも面子は考えず食へ物を探す	二二六
⑩	양반은 양 먹어도 긴 트립	両班は食へなくても長いけつぷ	相応しくない場所に行き儀そうに振舞う	四一七
⑪	양반은 죽어도 죽을은 안 쾡인다	両班は死んでも葬の火には当てない	面子を重視する	四一七
⑫	양반은 죽어도 묻지 안다	両班は死んでも文字を使う	面子を重んずる	四一七
⑬	양반은 죽을 먹어도 이를 우신다	両班は粥を食へても爪楊枝をする	大変なことがあっても面子を保つ	二二六
⑭	양반의 새끼는 고양이 새끼요 상놈의 새끼는 돼지 새끼리	両班の子供は猫、下人の子供は豚の子だ	知識人の振る舞い	四一七
⑮	양반의 처식이 열물이면 호세를 친다	両班の子供の12人が号牌をつける	面目を重視する	四一七
⑯	양반의 집 못 되려면 초라니 새끼 난다	両班の家が潰れる場合は変な女の子の形が生まれる	下の者を大事にすること	四一七
⑰	양반이 많을 한 개가 해장국이라고	両班は数1個が韓腸汁だという	裕福な家の子供は出世する	四一七
⑱	양반 지게 진 것 같다	両班が背負子を負っているよう	家長が頼むたら変なことが起きる	四一七
⑲	양반 과일 쓰고 한 번 대변보인 예사	両班が背負子をかぶって一度大便するのは普通	少し食へても豊かなことの意味合い	四一七
㉑	양반친가 두 날 반인가	両班なのか二両半なのか	下手な行動	四一七
㉒	주른 양반	青い再班	両班をからかうこと	四一七

*備考の漢数字は『속담사전(ことわざ辞典)』(民俗院、2002年・韓国)の頁
*備考の数字は、国立国語研究院『標準國語大辭典』(斗山東亜、1999年・韓国)の頁

三つ目は見聞を通じたり、または学習をしたりすることで社会に提示をする。日韓社会では、中国を題材にした共通の諺や慣用句を多く用いている。例えば、日本では「孟母三遷の教え」、同じ意味として韓国では「孟母三遷之教」が取り上げられる。

孟子 (BC372~BC289) は、鄒と呼ばれる地方の人で母親が孟子を育てる時、最初は葬儀をするところの近くに住んでいた。ところが、母親は孟子が葬儀遊びをするのを見て市場付近に引っ越しをした。ここでは孟子が店屋ごっこ遊びをするのを見た母親が再び「書堂」近くに移り住んだところ、孟子は学問に志したということが背景にある諺である。

日韓社会では、他にも中国由来の2字、または4字の故事成語も多く使っている。その2つずつの事例を取り上げることにする。2字の故事成語としては「杞憂」がある。杞は周代 (BC1046~BC256) の国名、憂は「心配をする」という意味である。つまり、杞の国の人が「天が崩れ地面が陥没するのではと心配をして、夜に眠れず、食事もできなかった」という『列子 (天瑞)』の古事に由来するもので無駄な心配をするという意味合いである。

そして、「推敲」という語彙も中国から伝わっている。その意味は、詩文の字句を複数回にわたって添削したりすることである。この故事は唐の詩人である賈島 (779~843) から由来する。賈島の「題李款幽居」という詩の中で「僧敲月下門」、すなわち僧が月の下の扉を「推す」とするか、それとも「敲く」とするか迷ったということから始まった¹³⁾。

そして、4字の故事成語としての「四面楚歌」は、四方から楚の歌が聞こえるということである。つまり、敵に囲まれ誰の助けも受けることができない孤立した状態を意味する。楚 (BC?~BC223) の項羽 (BC232~BC202) と漢 (BC206~220) の劉邦 (BC256~BC195) が天下の覇権をかけて争う時、項羽は漢の名将である韓信 (BC?~BC196) に包囲された。項羽は残った兵士を率いて烏江まで逃げたが、渡ることができず、結局は自決をしたという背景のストーリー (Story) がある故事成語である。

また「呉越同舟」は『孫子』の「九地篇」に登場する呉 (BC?~BC473) と越 (BC600?~BC306) の人が同じ船に乗ったという故事成語である。つまり、

敵対関係にある者同士が利害関係のために結束をするということの隠喩である。

これらの中国の事柄が素材になっている諺と慣用句、そして2字及び4字の故事成語が日韓社会に伝わり、それを見聞したり、あるいは学習をしたりすることを通して社会に提示されたと考える。

以上の3つの契機を通して諺と慣用句に繋がるものが社会に提示（発生）されるが、すぐ諺や慣用句として成立するわけではない。要するに、社会に提示された上、拡散され、また人々に共感されて普遍化する過程を経て成立し定着する。なお、歴史性によって新たな諺と慣用句として派生する場合も同じ過程を辿る。

3. 諺と慣用句の普遍性

3-1. 拡散と定着

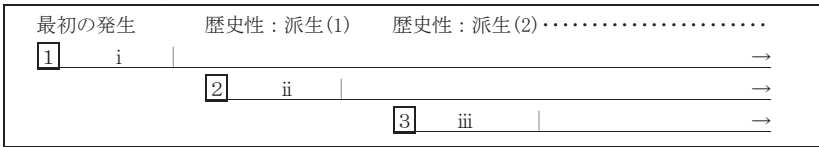
諺や慣用句の発生は、言及した3つの契機という前提が必要である。その契機を通して社会に提示（発生）されるが、それが直ちに諺や慣用句の成立に繋がるのであろうか。社会に提示された諺や慣用句に繋がるものが諺や慣用句として成立する過程について考察を行う。

諺や慣用句に繋がるものが社会に提示されたり、あるいは新たに同じ意味の諺や慣用句が派生したりするが、そのそれぞれは成立するまで同じ過程を辿る。ところで、諺と慣用句の発生や派生、拡散、普遍化、成立、定着という過程を明確にするには困難が伴う。なぜなら、ほとんどの諺や慣用句は、いつ社会に提示されたのか、また素材や背景の経緯から時期の推測をすることが難しいためである。

次の（表3）は、諺と慣用句の発生から定着に至るまでのメカニズム（Mechanism）を図式化したものである。

諺と慣用句に繋がるものが社会に提示されてもすぐ諺や慣用句として成立して定着するわけではない。（表3）でみるように、社会に提示されたものが成立するためには、まず拡散され普遍化する過程が必要である。すなわち、社会に提示されたものに対し人々が納得して拡散させ、よく使うようになる普遍化という過程を経て成立し、はじめて定着する。

(表3) 諺及び慣用句の発生・拡散・成立・定着のメカニズム



- * **1**、**2**、**3**は、諺と慣用句に繋がる事柄の社会への提示（発生）
- * i・ii・iiiは、諺と慣用句が社会に拡散・普遍化する期間
- * | は、諺と慣用句として社会に成立
- * →は、成立した諺と慣用句が社会に定着して用いられている状態

諺と慣用句の成立は、最初は(表3) **1**のように、社会に提示されること（発生）から始まる。一方、同じ意味の諺や慣用句が歴史性によって派生されるのも、**2**と**3**のように新たに社会に提示される。つまり、最初の社会への提示か、あるいは歴史性の派生による新たな社会への提示かという差はあるが、社会に提示されたもののいずれも諺や慣用句として成立して定着する過程は同じである。

最初の提示である**1**における i、そして派生による新たな提示の**2**と**3**における ii・iiiは社会に拡散し、普遍化して成立する期間ないし時間である。付言すると、**1**、**2**、**3**のような社会への提示という発生、そして i・ii・iii という期間における拡散、普遍化の過程を経て成立し定着するのである。

3-2. 社会への伝達手段

社会に提示されたものが社会に拡散するためには伝達の役割が極めて重要である。そこで、社会に拡散する伝達のメッセンジャー (Messenger) として重要な役割は、人はもとよりその人の移動を支える交通手段、マスコミ (Mass Communication)、出版が果たしていると言える。

すでに言及してきた日韓社会の「使いに行き帰ってこない」という意味の諺が発生し、さらに歴史性をもつ新たな諺と慣用句として派生して、加わっていくことについて時系列に図式化したのが、以下の(表4)である。

(表4) 日韓の「使いに行つて帰つてこない」という意味の諺の発生と歴史性(派生)

時期		712年	1400年	1543年	1549年	1594年	1603年	現在
成立過程	日本	⊖ _____		⊖ _____			⊖ _____	
	韓国		① _____				② _____	
			?.....?.....*?.....					

- ・日本：⊖「雉の頓使」、⊖「鐵砲玉の使い」、⊖「ミイラとりがミイラになる」
- ・韓国：①「咸興差使」、②「江原道砲手」、*「평 구워 먹은 소식」、*「終無消息」

(表4) ⊖は、『古事記』の編纂時には、すでに社会に定着していたものを収録したのか、それとも編纂者が作った話を記録したのか、断定はできない。しかし、本稿では便宜上、歴史書の編纂時点をもって諺の社会への提示(発生)の時期と見なすことにする。

次の⊖は、鉄砲が伝来されたからと言って直ちに諺や慣用句の成立に繋がったとは言えない。例えば、すでに取り上げてきた(表1)の□は、その成立は鉄砲の伝来時期より下の江戸時代と言われる。しかし、(表1)の□、つまり(表4)の⊖は鉄砲の伝来時点を諺や慣用句の発生時期としたい。

⊖のミイラという語彙は、南蛮貿易に伴うポルトガルの商人の往来によってポルトガルの言葉が日本に伝わったが、諺としては南蛮貿易と同時に成立したとは言えない。すでに言及してきたが、江戸初期にミイラ取りの情景が見られ、江戸中期には諺として成立していると考えられる。しかし、(表4) ⊖は江戸初期に社会への提示が見られるため、徳川家康(1543~1616)が江戸幕府を開府する慶長8(1603)年に成立したと見なすことにする¹⁴⁾。

ところで、「鉄砲の伝来」が南蛮貿易の始まりだという見解がある。一方、イエズス会の宣教師であるフランシスコ・デ・ザビエル(Francisco de Xavier)(1506~1556)が鹿児島に上陸した天文18(1549)年をもって南蛮貿易の始まりともされる¹⁵⁾。当時の宣教師は移動手段の船を持っておらず、南蛮貿易をする商人の南蛮船に便乗して移動したため、一般的にザビエルの来航は南蛮貿易の始まりという理解がもっとも説得力がある。しかし、ザビエルの来航以前、

薩摩国の鹿児島で殺人の罪を犯したアンジロー（1511?～1550）という人が今のマレーシア（Malaysia）のマラッカ（Melaka）まで逃亡した。その逃亡先でザビエルと出会い日本の案内役として同行し日本に上陸した¹⁶⁾。この裏を返せば、ザビエルの来日以前、アンジローがマラッカまで逃亡することができたのは日本に南蛮船が寄港していたためである。天文15（1546）年にアンジローは薩摩半島最南部の山川にやって来たポルトガル船に乗り、マラッカまで逃げられた。つまり、鉄砲の伝来とザビエルの上陸の間、すでに南蛮船による南蛮貿易が行われていたのである。

一方、韓国社会における「使いに行つて帰つてこない」という意味の諺、つまり（表4）の①と②は、社会に提示された年代の推測ができる。しかし、同じ意味の「땡 구워 먹은 소식」や「終無消息」の素材からは、いつ社会に提示されたのか、その時期の推測ができない。この2つの成立は①と②の発生以前なのか、あるいはその間なのか、それともそれ以降なのか、時期が定かではない。

そこで、諺や慣用語が社会に提示、成立という過程について注目する。まず結論から言えば、近代国民国家成立以降は交通手段が整備され、マスコミをはじめとする出版物が発達し、諺と慣用語が社会に広がる速度は近代国民国家成立期以前より早くなったということである。

すでに取り上げたように、日本社会には「赤信号皆で渡れば怖くない」という諺がある。諺の素材である交通信号が日本では、1919年に初めて設置された。その後、1960年代の高度経済成長期に入ると、自家用車の所有者が増え自動車の数が急激に増加した。この影響をうけ、高度成長期には道路の拡充とともに信号も多く設けられた。この信号機の導入時期を考えると、社会に提示され定着するまで長い時間はかからなかった¹⁷⁾。

一方、言及した韓国社会における「비행기 태운다」という表現の素材である飛行機は、1903年にライト兄弟が有人飛行を行った以降のことである。その後、1920年にイタリア人アルトゥーロ・フェラリンが韓国に飛来した。この飛行機という文明を考えると、「비행기 태운다」も社会に提示されて拡散し成立するまで、あまり時間はかからなかった。

ちなみに、韓国社会における隠喩の「맥주병이다」(直訳:ビール瓶だ、意識:泳げない)は、日本では金づち(意識:泳げないという意味)である。このビール(Beer)瓶が韓国に伝わったのは、朝鮮王朝が門戸を開放する時期よりも少し早い段階である。つまり、一貫して鎖国政策を堅持した朝鮮が正式に日本と丙子修好条約(別称は江華島条約という)を結び開港をした高宗13(1876)年よりやや遡る。高宗8(1871)年、アメリカ(America)の軍艦が朝鮮に開港を迫る、いわゆる「辛未洋擾」の過程でビール瓶が伝わった¹⁸⁾。この伝来過程を考えると、慣用語として成立するまではあまり時間を要していない。

このように、日韓社会に信号機、飛行機という文明が西洋から伝わり、これらを諺や慣用語の素材に取り入れているため、その発生時期が推測できる。このことを鑑みると、諺や慣用語に繋がるものが社会に提示され、諺や慣用語として成立するまでの期間は短い。すなわち、社会に提示された後、迅速に拡散して普遍化し、成立して定着する理由は、近代国民国家成立以後における交通手段の発達、マスコミをはじめとする出版が深く関わっていると考える。交通の発達による人の移動、そしてマスコミや出版を媒体にして(表3)で見る i・ii・iiiの期間は大幅に短縮された。

要するに、一般論として諺や慣用語の素材を手がかりにして発生時期の推測ができて時代によって成立までの速度は異なると考える。近代国民国家の成立期以降は移動(交通)手段をはじめとするマスコミ、すなわち新聞、ラジオ(Radio)、テレビ(TV)、そして出版などが発達するため、諺と慣用語が社会に拡散する速度は速かったと言えよう。

一方、前近代には近代国民国家成立以降より交通手段とマスコミと出版が発達しておらず、主に人を經由して配信され拡散する傾向が強かった。前近代には諺や慣用語に繋がるものを社会に提示した人、あるいは社会に提示されたものに感化された人に会ったり、さらには社会に提示されたことの記録に出会ったりして拡散され成立したという推論ができよう。

3-3. 普遍化と地域性

諺と慣用語に繋がるものが社会に提示されると、そのすべてが諺や慣用語と

して成立するのか。その一端がわかる日韓社会の諺や慣用句を取り上げることにする。

グローバル（Global）化時代に入ってから、諺や慣用句に繋がるものの社会への提示は様々な媒体を通じて急速に、しかもリアルタイム（Real Time）で人々に拡散する。以前の時代と比べて諺や慣用句に繋がるものの拡散の速度は速くなったが、諺や慣用句として成立し定着するまでには至らず流行語で終わってしまうことが多い。すなわち、社会の人々に拡散はできるが、ほとんどは後世に残るような諺や慣用句として成立せず、一時的な流行に終わり定着しない。

しかし、現代のマスメディアから社会に提示されて流行し、一過性で消えずに成立して定着したケースがある。その代表的な事例としては「赤信号皆で渡れば怖くない」が取り上げられる。言及したように、そもそもは1979年に漫才師ツービート（Two Beat）が言い出して流行語となって社会に定着したと見なすことにする。近年は、「～皆で～怖くない」という部分を生かしたもじりも多く作られ、赤信号を省いた形が多くみられる。

ところで、日韓社会では諺や慣用句として成立はしているが、一定の地域だけに留まる場合がある。諺や慣用句として全国的な拡散までは至らず、特定の地域でしか普遍化していないものである。言い換えれば、社会に提示されたものが広範囲には拡散されず普遍化に失敗したケースであると言える。

例えば、日本では東北地方の福島県会津市を中心とする地域に「蒙古がくる」（意識：怖いものがくる）という諺が伝わっている¹⁹⁾。この根源を追跡してみると、次の歴史的事実と深く関わっていることがわかる。

13世紀、蒙古は中国大陸を支配下に入れた後、東は高麗、西は東欧に至るまでの領域を征服する大帝国を建設した。東アジアで蒙古は高麗を先立たせて鎌倉時代の日本まで征服をしようと企てた。そこで蒙古は二度にわたって日本を攻撃しており、これが文永（1274）・弘安（1281）の役である²⁰⁾。

蒙古襲来の当時、日本では北条氏が執権政治を行っていた時期である。北条氏は蒙古の侵略に当たり、猛攻を撃退するため、東北地方の武士を九州、つまり今の福岡地域に移動させて防御に備えた。この「蒙古がくる」という諺は、

東北地方の会津地域から九州に防御に赴いた武士が任務を果たした後、会津地方に戻り、その地域社会に提示したものであると言えよう。当時、会津郡辺りに所領をもっていた佐原氏の子孫である三浦頼盛（?～?）が九州のほうに赴いたと推測する²¹⁾。

しかし、「蒙古がくる」という諺は、全国的に拡散して普遍化し定着するまでには至らず東北地方、すなわち会津という限定された地域だけを中心に今も使われている。つまり、「蒙古がくる」は(図1)の②のように歴史性によって派生したものと考えるが、全国レベル (Level) までの拡散はしていない。

なお、蒙古襲来の後から随分の時間が経過した 19 世紀半ばになると、日本では黒船の来航という出来事が起こる。つまり、幕末の嘉永 6 (1853) 年、米国のペリー (Perry) 提督が率いる艦隊が現在の神奈川県横須賀市東部である浦賀に来航して開港を求め当時の日本国内に大きな衝撃を与えた。この黒船は欧米の日本進出と圧力の象徴として日本社会に一種の恐怖感を与えたのである。

これ以降、黒船は「蒙古がくる」とほぼ同じく外国からの大きな衝撃や恐怖感を与える意味の言葉として使用されるが、主に恐怖感として読み取ることが多い。いわば、「蒙古がくる」が(図1)の②の派生だとすれば、黒船は③の歴史性による派生であると見なすことができる。

ごく最近の黒船の事例としては、「日本の大学にも押し寄せる中国の波 (学生)」による恐怖感を感じる意味で「令和の黒船」という表現を用いている²²⁾。そして「電子書籍は出版界の黒船となるか」と言われたりもする²³⁾。海外からの新しい計画、政策、新製品などが国内に大きな衝撃をもたらす意味合いである。

日本社会における黒船は「蒙古がくる」とほぼ同じ意味合いとして使われており、歴史性によって派生して成立した慣用句である。要するに、「蒙古がくる」は広範囲の社会に拡散はできておらず、一定の地域に留まっているが、「黒船」は全国的に広まっている。前者の蒙古は弘安の役が終わってからの 13 世紀の後半頃、そして後者の黒船は幕末の嘉永以降、19 世紀の後半頃に社会に提示されたと考える。

韓国では日本と同じ意味の「怖いものが来る」という意味の諺や慣用句は、

「호랑이가 온다」(直訳：虎が来る)や「호랑이보다 무서운 곳감」を取り上げることができる。前近代の韓国社会では虎が生息しており、その虎による被害が多く、そこで虎に関連する諺や慣用句が数多く成立している。

恐怖の虎は、朝鮮時代には都城の漢陽にまで出没したとする。大正期(1912～1926)まで韓国の南部地域である全羅道や慶尚道で虎狩りを行い捕獲している²⁴⁾。

この虎は、恐怖感を与えるものではあるが、薬としても活用されていた。文禄・慶長の役(1592～1598)の際、朝鮮を侵略した日本の武将である島津義弘(1535～1619)は病気にかかっていた豊臣秀吉(1537～1598)のため虎狩りを行い治療薬として献上した²⁵⁾。

このように、日本社会の蒙古襲来及び黒船、そして韓国社会の虎は諺や慣用句の素材に取り入れられて社会に提示され、同じく恐怖を表す諺や慣用句として成立している。

ところで、韓国社会でも歴史性によって派生した諺が普遍化されず、一定の地域だけで残っているものがある。「同価紅裳」と同じ意味の「같은 값이면 다홍치마」(直訳：同じ値であれば真っ赤なスカート)という諺がその事例である。つまり、「同じ値段であれば、良いほうを選ぶ」という意味であるが、その発生や成立の時期を推測するのは難しい。

しかし、「同価紅裳」や「같은 값이면 다홍치마」と同じ意味の「기왕이면 덕수궁」(直訳：できるなら徳寿宮)²⁶⁾及び「기왕이면 창덕궁」(直訳：どうせなら昌徳宮)²⁷⁾という諺が韓国のソウルと京畿地方を中心に用いられている。

前者の素材である徳寿宮は、もともとは世祖(1417～1468)の長男で成宗(1457～1494)の兄である月山大君(1433～1488)の邸宅であった。しかし、文禄・慶長の役の際、宮殿がすべて燃えてしまい、避難から戻ってきた宣祖(1552～1608)は住む場所がなかった。そこで、この邸宅を改築し貞陵行宮・貞陵東行宮とした。その後、光海君(1575～1641)は慶運宮と名称を改めた。

ところで、日本は1905年に大韓帝国との間で乙巳保護条約を締結し、大韓帝国の外交権を剥奪した。この条約が不当であると世界に向けて主張をするため1907年、光武帝の高宗(1852～1919)はオランダ(Holanda)のハーグ(Haag)

で開かれる万国平和会議に密使を派遣した。しかし、これを口実に日本は高宗を強制的に退位させ、同年、隆熙帝の純宗(1874~1926)を皇位に即位させた。1907年に退位した高宗が慶運宮に居住した。そこで、純宗は高宗の長寿を念願する意味で、1907年に徳寿宮と改称を行った²⁸⁾。

後者の昌徳宮は、太宗が1404年に建てた宮殿であるが、1910年の日韓併合当時は、純宗が正殿として使っていた。

要するに、「기왕이면 덕수궁」は朝鮮王朝の王権が変わる出来事と結びついて成立した諺である。退位した高宗が徳寿宮に暮らすようになる1907年以降に成立したのは明白である。同じく「이왕이면 창덕궁」も1907年に純宗が皇位を継承し、昌徳宮に住むようになった頃に成立したと考える。この2つの諺は(表3)の②、③のような歴史性による派生ではあるが、全国に至る普遍化はしておらず、ソウルと京畿地方を中心に用いられている。

このように、日本の「蒙古がくる」と韓国の「기왕이면 덕수궁」・「이왕이면 창덕궁」は全国的に普遍化した諺や慣用句としては定着していない。言い換えれば、これらの諺や慣用句は広範囲の普遍化と成立に失敗した事例と言える。

おわりに

日韓社会で使われている諺や慣用句の中で発生や派生、そして成立時期を把握することができるものは多くない。しかし、諺や慣用句の素材及び背景の経緯に基づき、その発生や派生、また成立時期の推測ができる諺や慣用句をもって分析を行うと、諺と慣用句は化石のようなものではないことに気づく。つまり従来、諺や慣用句として成立しているものとは異なる同じ意味の新たな諺や慣用句が現れるが、これは歴史性による新たな諺や慣用句の派生である。

諺や慣用句に繋がるのが社会に提示(発生)されるのは、概ね次の3つのきっかけによる。すなわち、出来事などを目撃・体験する、日常生活の中で観察・自覚をする、そして見聞・学習をするという契機を通して社会に提示される。その後、社会に拡散され、普遍化して諺と慣用句として成立し定着するという過程を経る。

諺や慣用句の発生から成立に至るまで社会の環境に大きな影響を受ける。諺

や慣用句の拡散と普遍化の過程では、交通手段、そしてマスコミをはじめとする出版物が大きな影響を及ぼす。その意味で前近代と比べて近代国民国家成立期以降における諺や慣用句の拡散と普遍化の速度は遥かに速い。とりわけグローバル化時代になると、様々な媒体を経由してリアルタイムで社会に提示され拡散される。

ところで、上記の3つの契機を通して社会に提示されたもののすべてが普遍化し、諺と慣用句として成立するわけではない。社会に提示されたものが全国的に拡散されず、一定の地域だけで通用される諺と慣用句が散見される。なお、グローバル化時代には様々な媒体を通じて諺や慣用句に繋がるものが社会に提示されるが、流行語として終わってしまうことが多い。

日韓社会における諺や慣用句の中で発生と歴史性による派生を追究することができるものはごく僅かに限る。この限られた諺や慣用句の中で、その素材や背景の経緯が把握できるものを探り、発生や派生という過程を紐解くことを通して社会の断面も垣間見ることができる。

注

- 1) 『古事記 日本古典文学全集』(小学館、1999年)上巻「忍穂耳命と邇々芸命」、そして『日本書紀1 日本古典文学全集』(小学館、1994年)巻第一神代上「素戔鳴尊と天照大神の誓約」に記されている。
- 2) 『新明解故事ことわざ辞典(第二版)』(三省堂、2016年)171頁。
- 3) 『国語辞典』(民衆書林、1991年、韓国)2696頁。
- 4) 李芳遠が起こした王子の乱に関しては、韓春順「太祖7年(1398) 제1차 왕자 난의 재검토(太祖7年(1398)第1次王子の乱の再検討)」(『朝鮮時代史学報』55号、朝鮮時代史学会、2010年、韓国)、洪最憲「조사의의(趙思義)의 난 연구-함흥차사 사건 역사성의 재검토- (趙思義の乱の研究-咸興差使事件の歴史性の再検討-)」(『京畿郷土史学』第11輯、全国文化院聯合会京畿道支会、2006年、韓国)を参照されたい。
- 5) 鈴木真哉『鉄砲と日本人』(ちくま学芸文庫、筑摩書房、2000年)、宇田川武久『真説鉄砲伝来』(平凡社、2006年)

- 6) 『岩波ことわざ辞典』(岩波書店、2002年) 563頁によれば、江戸初期の慶長～延宝(1603～1680年)頃にミイラから採れるとされた油がポルトガル船などで輸入され、高価ながらも万能薬として人気があったとする。そして江戸中期の天和～安永(1681～1780年)頃の赤本『名人ぞろへ』にはミイラ取りの情景が記され、浄瑠璃『本朝二十四孝』などに諺の用例としてよく見られるとある。さらに、宝永6(1709)年に貝原益軒(1630～1714)が書いた『大和本草』には「ミイラ」という項目のもと説明が行われている。貝原益軒著・臼井光太郎考註『大和本草』(第二冊、有明書房、1983年) 272頁。
- 7) 沙也可は、朝鮮の国王から金という名字を授けられ、金忠善と名乗った。英祖10(1798)年、子孫は金忠善が書いた文集を集め『慕夏堂文集』(奎章閣図書)を発行しているが、鉄砲の製造について記されている。そして한문중「임진왜란시의 항외장 김충선과 모하당문집(壬辰倭乱のときの降倭将金忠善と慕夏堂文集)」(『韓日関係史研究』第24号、韓日関係史学会、2006年、韓国)を参照されたい。
- 8) 前掲『岩波ことわざ辞典』7頁。
- 9) 笠原秀『信号機のルーツをさぐれ!』(アリス館、2001年) 41頁。さらに67頁では、世界初の交通信号機は手動交通信号灯で1868年ロンドン(London)、1919年にはニューヨーク(New York)にも設置されたとする。
- 10) 柳沢光二「極東の日本を目指してー大飛行時代に訪日した飛行家たち「第1回・フェラリン」ー」(『航空ファン』1月号、文林堂、2021年)
- 11) 義江影夫『鎌倉幕府地頭職成立史の研究』(東京大学出版会、1978年)、関幸彦『地頭』(吉川弘文館、1983年)
- 12) 昔、自分が世の中で一番怖い存在だと思っていた虎がいた。ある日、この虎が食べ物を求めて人々が住む村に降りてきた。ちょうどある家で幼子が泣いていて母親は泣き止むようにあやした。しかし、幼子は母親がどんなにあやしても泣き止まなかった。そこで、母親が「호랑이가 온다」(直訳: 虎がくる、意識: 怖いものがくる)と言っても泣き続けていて、「干

し柿」をあげると言った途端、泣き止んだ。幼子が干し柿という言葉聞いて泣き止んだので、虎は干し柿が自分より怖いものだと思い逃げたという内容である。これと類似した内容は『日本伝統文化辞典』（教育出版株式会社、2006年）110～111頁、そして神谷丹路 再話「とらより こわい ほしがき」（『10分で読めるお話』学研、2006年）でも紹介されている。

- 13) 静永健「賈島「推敲」考」（『中国文学論集』29号、九州大学中国文学会、2000年）、そして金泰虎「前近代の東アジア漢字文化圏における交流と語彙」（『Zephyr（ゼフィール・にしかぜ）』50号、甲南大学国際言語文化センター、2011年）では推敲に関することを言及している。
- 14) 前掲『岩波ことわざ辞典』563頁。
- 15) 浅見雅一『フランシスコ ザビエル 東方布教に身をささげた宣教師』（山川出版社、2011年）を参照されたい。
- 16) 岸野久『サビエルの同伴者アンジローー 戦国時代の国際人ー』（吉川弘文館、2001年）、そして金泰虎「十六世紀末の東アジアにおける国際関係とイエズス会」（『地域と社会』2号、大阪商業大学比較地域研究所、1999年）ではアンジローーについて述べている。
- 17) 前掲『岩波ことわざ辞典』7頁の「赤信号皆で渡れば怖くない」は、1979年に漫才師ツービートが言い出して流行語となったとする。つまり、諺に繋がるものが社会に提示されたと見なしたい。
- 18) 19世紀半ば、西洋列強が朝鮮の沿岸に軍艦を送り開港を迫ることが頻発する中、高宗3（1866）年にアメリカの商船ジェネラル・シャーマン（General Sherman）号が通商を求めてきたが、朝鮮側が撃退する「丙寅洋擾」という事件が発生した。この後、1871年にアメリカは軍艦を派遣する辛未洋擾が起きた。当時、アメリカの軍艦には従軍写真家のフェリーチェ・ベアト（Felice Beato）（1832～1909）が同乗していた。ベアトは1871年5月30日、朝鮮の下級官吏であるキムジンスン（김진성）が軍艦に乗り込みビール瓶を抱え込んで降りた姿を撮っている。この写真はアメリカのパウロゲティー博物館（J.Paul Getty Museum）に保管されている。

詳しくは「상투 틀고 끌어안은 맥주병 (丁髷の姿で抱え込んだビール瓶) (『朝鮮日報』朝鮮日報社、2021年5月17日、韓国) を参照されたい。

- 19) 「蒙古がくる」という諺については、福島県会津出身の大阪商業大学の田崎公司先生からご教示を頂いた。
- 20) 蒙古襲来に関しては数多くの研究が行われてきているが、それよりも当時の戦闘様子をリアルに描いた『蒙古襲来絵詞』が伝来されている。『蒙古襲来絵詞』(日本の絵巻13、中央公論社、1990年) を参照されたい。
- 21) 七宮淳三『三浦・会津 蘆名一族』(新人物往来社、2007年)
- 22) BS6 TBS「令和の黒船ー日本人が知らないニッポンー」(2021年2月20日(土) PM11:00~12:00の放送番組)。番組の中では「令和の黒船襲来」とも言われていたが、中国が経済、軍事などの脅威だけではなく、大勢の中国からの留学生が日本の大学に押し寄せてくる状況をもって恐怖として捉えている。
- 23) 「デジタル大辞泉 (小学館)」(『電子辞書』CASIO、2013年) による。
- 24) 遠藤公男『韓国の虎はなぜ消えたのか』(講談社、1986年) 213頁によれば、1919~1924年の間に全羅道と慶尚道の地域で捕獲した虎は15頭にも上る。
- 25) 文禄4(1595)年、島津義弘が戦場で虎狩を行い秀吉に虎の骨肉を献上したことに対する秀吉の礼状(「豊臣秀吉朱印状」東京史料編纂所所蔵)が残されている。虎狩の様子を描いた絵画は、「黎明館」・「九州国立博物館」・「尚古館」・「都城歴史資料館」に伝わっている。
- 26) 地域別の諺を収録している『속담사전 (ことわざ辞典)』(民俗院、2002年、韓国) 57頁。
- 27) 前掲『속담사전 (ことわざ辞典)』258頁。
- 28) 홍순민『우리 궁궐 이야기 (我が宮闕の話)』(청년사 (チヨンニョンサ)、2010年、韓国)

<参考文献>

日本語（年代順）

- ・ 義江影夫『鎌倉幕府地頭職成立史の研究』（東京大学出版会、1978年）
- ・ 貝原益軒著・白井光太郎考註『大和本草』（有明書房、1983年）
- ・ 関幸彦『地頭』（吉川弘文館、1983年）
- ・ 遠藤公男『韓国の虎はなぜ消えたのか』（講談社、1986年）
- ・ 『蒙古襲来絵詞』（日本の絵巻13、中央公論社、1990年）
- ・ 『日本書紀1 日本古典文学全集』（小学館、1994年）巻第一神代上「素戔鳴尊と天照大神の誓約」
- ・ 『古事記 日本古典文学全集』（小学館、1999年）上巻「忍穂耳命と邇々芸命」
- ・ 金泰虎「十六世紀末の東アジアにおける国際関係とイエズス会」（『地域と社会』2号、大阪商業大学比較地域研究所、1999年）
- ・ 鈴木眞哉『鉄砲と日本人』（ちくま学芸文庫、筑摩書房、2000年）
- ・ 静永健「賈島「推敲」考」（『中国文学論集』29号、九州大学中国文学会、2000年）
- ・ 『信号機のルーツをさぐれ!』（アリス館、2001年）
- ・ 岸野久『サビエルの同伴者アンジローー戦国時代の国際人ー』（吉川弘文館、2001年）
- ・ 『岩波ことわざ辞典』（岩波書店、2002年）
- ・ 『日本語慣用語辞典』（東京堂出版、2005年）
- ・ 『日本伝統文化辞典』（教育出版株式会社、2006年）
- ・ 神谷丹路 再話「とらより こわい ほしがき」（『10分で読めるお話』学研、2006年）
- ・ 宇田川武久『真説鉄砲伝来』（平凡社、2006年）
- ・ 七宮淳三『三浦・会津 蘆名一族』（新人物往来社、2007年）
- ・ 浅見雅一『フランシスコ ザビエル 東方布教に身をささげた宣教師』（山川出版社、2011年）
- ・ 金泰虎「前近代の東アジア漢字文化圏における交流と語彙」（『Zephyr（ゼフ

- ・『イール・にしかぜ』50号、甲南大学国際言語文化センター、2011年)
- ・『電子辞書』(CASIO、2013年)
- ・『新明解故事ことわざ辞典(第二版)』(三省堂、2016年)
- ・柳沢光二「極東の日本を目指して－大飛行時代に訪日した飛行家たち「第1回・フェラリン」－」(『航空ファン』1月号、文林堂、2021年)

韓国語(年代順)

- ・『国語辞典』(民衆書林、1991年、韓国)
- ・国立国語研究院『標準国語大辞典』(斗山東亜、1999年、韓国)
- ・『속담사전(ことわざ辞典)』(民俗院、2002年、韓国)
- ・한문중「임진왜란시의 항왜장 김충선과 모하당문집(壬辰倭乱のときの降倭将金忠善と慕夏堂文集)」(『韓日関係史研究』第24号、韓日関係史学会、2006年、韓国)
- ・洪最憲「조사의(趙思義)의 난 연구－함흥차사 사건 역사성의 재검토－(趙思義の乱の研究－咸興差使事件の歴史性の再検討－)」(『京畿郷土史学』第11輯、全国文化院聯合会京畿道支会、2006年、韓国)
- ・홍순민『우리 궁궐 이야기(我が宮闕の話)』(칭년사(チョンニョンサ)、2010年、韓国)
- ・韓春順「太祖7年(1398) 제1차 왕자 난의 재검토(太祖7年(1398)第1次王子の乱の再検討)」(『朝鮮時代史学報』55号、朝鮮時代史学会、2010年、韓国)
- ・『朝鮮日報』(朝鮮日報社、2021年5月17日、韓国)

パンソリ「春香伝」中の諺

—その使用と変容—

柏原 卓

キーワード：パンソリ、朝鮮時代、諺の文脈研究、諺の場面変容、諺の時代差
と地域差

[目次]

まえがき

1. パンソリ「春香伝」中の諺—その使用と変容— 【日本語訳】

1-1. はじめに

1-2. 先行研究と研究方法

1-3. 各論

1-4. まとめ

おわりに

まえがき

本報告は2019~20年度「甲南大学総合研究所研究チーム」の課題「東アジア社会における諺と慣用句の研究」(代表者:金泰虎教授)に与えられた研究費による研究のうち、柏原卓の担当部分「日韓の文芸における諺」についての成果報告である。まず研究費を支援くださった甲南大学関係当局と、チーム参加を勧めてくださった金泰虎教授に心からお礼申し上げる。

研究の経過だが、諺を通して過去の文化や思想を窺い知る視点を重視しつつ、文脈付き収集と考察に努めた。1年目は、近世口演文芸の代表作である朝鮮パンソリ「春香伝」と日本説経「さんせう太夫」における諺の使用をテーマにした。2年目は日韓の古典文芸における諺使用をテーマに研究した。成果は国際学会などで発表した。発表題目・学会・所収誌等は下記の通りである。

①パンソリ「春香伝」と日本の説経「さんせう太夫」における諺の研究（韓国語；韓国言語文化教育学会 2019 年秋季大会、韓国・仁荷大学校）

②パンソリ「春香伝」中の諺—その使用と変容—（韓国語；2020 中部東部ヨーロッパ韓国学会国際学術大会、トルコ・Erciyes 大学、リモート開催）

③日韓の文芸における諺使用（日本語；韓国文化学会大会・甲南大学リモート開催、『韓国文化研究』別冊 3 号に再録）

上記成果の中で、諺使用と変容の生き生きした例を解明できている②を代表作と考え、日本語訳して成果報告に代えたい。ちなみに③は既に公刊されている。内容は、近世口演文芸から対象を広げて、日本上代中古の諺の特徴的用例と韓国の三国時代以降の諺資料を見渡している。

なお対象とした諺について、日韓とも中国の故事成句を大量に受容して諺と同様に使用しているが、本研究では原則としてそれらを除外し固有語による諺を主な対象とした。

1. パンソリ「春香伝」中の諺—その使用と変容— 【日本語訳】

1-1. はじめに

諺研究において一作品中の諺を研究することはどの程度価値があるか。諺の数は正確に言えないが無数に多い。ある諺辞典の約 7,000 余項目という例も参考になる。しかし本稿が対象にする諺は 12 個に過ぎない。まさに氷山の一角である。このような場合は一つずつ実際文脈を研究して、諺辞典に見えない情報を追加すればよい。具体的に本稿では「使用状況」、「変化」（場面による変容）、「変遷」（時代差、地域差）を記述しようとする。

春香が「不更二夫」の節を、李夢龍が「百年佳約」を守って愛を貫徹した話は、パンソリを始め小説、演劇、映画から大衆歌謡、児童漫画に至るまで広く愛されてきた。パンソリ「春香伝」の魅力の中の一つが生き生きした表現を作り出す諺である。

パンソリの詞章には異本が多く「春香伝」だけでも数十種あると言うが、本稿では初期の全州版『烈女春香守節歌』を基本資料とし、必要に応じて他の異

本も参照する。研究対象とした諺は、李家源注釈『春香傳』で俗談(諺)と注した12個である。この書の本文は全州版を忠実に活字に翻刻したものである。

第3章各論で12個の諺の使用状況を解明した後、その中の「変化」5個と「変遷」7個について考察する。

1-2. 先行研究と研究方法

1-2-1. 研究の動向

まず「春香伝」の研究と諺研究全般という2領域に分けて簡単に言及する。

(1)「春香伝」に関しては、口碑文学として文学的研究、歴史的研究が多い。詞章に対する注釈書も多種がある。しかし漢文の典拠を提示することに努力を傾注しているものの固有語の諺に注釈した場合は多くない。李家源『春香傳』の注釈中12個程度である。金鉉龍編著『板本 呉 校註 烈女春香守節歌』に1個がある。

金世宗制唱本から諺を抜き出して表現効果を説明したものとして、国立国語院「休止符、終止符」連載の中の「面白い我が国の諺13」(金ヨンヒ)がある。

(2) 諺研究全般では「収集と整理」そして「理論研究」を両輪とする多くの蓄積があるが、最近では藤村美織(1996)の社会学的研究など新しい研究方法が注目されている。また武田勝昭(1996)は文脈付き収集の重要性を指摘した。諺辞典に収録された形態と意味用法を超えて、文脈中の多様な例を考察するための収集である。

(3) 本稿発表者は以前に「パンソリ『春香伝』と日本の説経『さんせう太夫』における諺の研究」(2019)という発表をし、両作品の諺使用方法について対照研究をした。その時の出席者の助言で、「口演者の口調や意図、口演される状況」「記録された時の口語の影響」「地域差・時代差と見るより口頭創作の口伝と見る」という貴重な視角を知った。「口頭創作」については参考論文も告げられた。また「異本の処理」「作品中の諺を一つずつ全て考察せよ」との指摘もあった。この内「口頭創作」というのは「口演する時の口演者自身の創作」の意味であろうが、むしろ民間に既に存在してきた諺を引用したり活用する場合が多かろうと考える。

1-2-2. 研究方法

上記の指摘を参考にして次のような研究方法を取る。

(1) 12個の諺の「使用状況」を解明した後に、その中から「変化」5個と「変遷」7個について考察する。「使用状況」とは、諺を誰がどのような場面でどのような意図で使ったかを内容とする。「変化」は場面による形態等の変容を指す。「変遷」は時代差、地域差だが、現行の諺との比較や、注釈の「方言」という指摘を参考にする。

(2) 対象とした諺は李家源註釈『春香傳』（正音社）で諺と認定した12個である。この注釈書の本文は全州版を忠実に活字に翻刻したものである。この本文を使用しながら必要に応じて金鉉龍編著『板本 吳 校註 烈女春香守節歌』（亜細亜文化社）の影印で確認をした。全州版を基本にして「京板本」（三中堂文庫『春香傳』活字）、「金世宗制唱本」（web）、「晩汀版唱本」（web）、「申在孝辞説」（姜漢永校註『申在孝 판소리 사설（パンソリ辞説）集』普成文化社）を参照した。

	使用状況	変化	変遷
(1) 念を入れた塔が崩れ	○	○	
(2) 雲雀が麻の実をつく	○		○
(3) 鵬が出て鳳が出	○	○	
(4) 酸っぱい実杏	○	○	
(5) 苦尽甘来	○		○
(6) 女の恨み	○		○
(7) 盲人が間違っているか	○	○	
(8) 罽毘百年の客	○		○
(9) 南風に塵が舞くよう	○		○
(10) 天方地方	○		○
(11) 念を入れた塔が崩れた	○	○	
(12) 這い出る穴がある	○		○

<表1>各諺についての考察事項

<表1>にある(1)~(12)の諺について「使用状況」「変化」「変遷」の3つの事項を考察して次章で記述することにする。各事項で考察した諺の位置に○印を付けた。

1-3. 各論

以下に12個の諺の使用状況と変化、変遷について、1-3-1から1-3-3まで記述する。(引用本文のハンゲル古体や綴りの処理に関する部分の日本語訳を省略)

1-3-1. 使用状況

(1) 念を入れた塔が崩れて植えた木が折れるか —説得—

この意味は辞書に「念を入れた塔が崩れるか : 力を尽くし誠意を込めた事は、その結果が必ず無駄にならないこと…」(標準国語大辞典→以下「標準」)と記述されている。形態が「春香伝」では「念を入れた塔が崩れて植えた木が折れるか」となっているが同じ意味である。

使用状況は発端で退妓月梅が「名山大刹に祈って子を生もう」と夫を説得する場面である。夫の成参判が効果を疑うので、月梅が孔子ら昔の中国と朝鮮の例を効果の証拠に上げてからこの諺を引用し、誠心誠意やってみようと強調する。この説得過程を見る時、まず理論的な証拠として漢語を多く交えた中国と朝鮮の故事を言った後に、決断を促すのに感性に訴える固有語の諺を使ったことが興味深い。

(2) 雲雀が麻の実をつつくように —非難—

意味は「雲雀麻の実をつつくように : 絶え間なく小声でしゃべり続ける様子」(標準)である。形態が多少異なる経緯は後に「変遷」で考察する。

使用状況は春香が李夢龍の命令で彼女を呼びに来た房子(召使)を非難する場面である。その台詞は「お前はたわけ者だ。お坊ちゃんがどうして私を知って呼ぶと言うの。お前が私のことを<雲雀麻の実をつつくように>話したと見える」である。房子が李坊ちゃまに春香の話をはひそひそしゃべり続けるようにあれこれ申し上げたのだろうと言う意味で、この諺の卑下的な意味を十分表現している。

(3) 鵬が出て鳳が出、將軍出て竜馬出、南原の春香出て梨花春風華やか 一矜持一

この意味は「鵬が出て鳳が出る : 最も良い連れ合いが現れることを比喩的に言う言葉」(標準)と辞書に記す。続く「將軍出て竜馬出る」も同じ意味の朝鮮時代の諺である(本稿1-3-3変遷を参照)。

使用状況は、月梅が娘春香を尋ねてきた李坊ちゃまを自らが見た吉夢の故に歓迎する場面である。最後に付された「南原の春香出て梨花春風華やか」は、娘春香の教養を自慢し両班(貴族)の子弟と良い連れ合いだと言う意味を表している。

(4) 酸っぱくて渋い満州杏を食べようというのか 一戯弄一

李家源の注釈には「酸っぱくて渋い満州杏」に対して、諺だと記しているだけで他の説明は無い。辞書には「色が良い満州杏 : 表面を見れば美味しそうな色を帯びているが不味い満州杏という意味で、表面だけそれらしくて中身がない場合を比喩的に言う言葉」(標準)、「満州杏を食べた後味 : ほろ苦く渋い後味」(標準)と記述している。「酸っぱくて渋い」と言うのを見ると、後者の「満州杏を食べた後味」を念頭に置いたのではないか。

使用状況は、春香の母の前で百年佳約(夫婦の誓い)をした後、部屋に二人だけで残った李坊ちゃまと春香の遊戯的な問答を描写した「愛の歌」に出てくる言葉である。前後の問答の要旨はこうである。「お前は私を食べる狐か。お前は何を食べようというのか。生栗か、茹で栗か、西瓜に蜂蜜を注いで食べようというのか」「いえ、それも嫌です」「ならば酸っぱくて渋い満州杏を食べようというのか」「いえ、それも嫌です」「ならば豚を食べたいか、犬を食べたいか、私を丸ごと食べようというのか」「もし若様、私が人を食うのをご覧にでもなりましたか」。このような文脈での「酸っぱくて渋い満州杏」の表現意図は解釈が難しい。とにかく多くの言葉で戯弄(ふざけ)しながら親近感を生み出す場面である。

(5) 「興尽悲来」「苦尽甘来」昔からあるが 一実感一

李家源の注釈は「興尽悲来」について漢文の典拠を明示する一方、「苦尽甘来」を諺だとした。後者の意味は「苦尽甘来 : 苦いものが尽きれば甘いものが

来るという意味で、苦勞の末に楽しい事が来ること…」（標準）である。

李坊ちゃまが父の昇進のため止むを得ずソウルに上り、残った春香が独り部屋で嘆く場面の中の言葉である。長い台詞の中に「興尽悲来、苦尽甘来、昔からあるが、待つこと少なからず、恋偲んでからも久しいが、一寸の腸にくねくねと結ばれた恨みを君ならぬ誰が解くか」と出て来る。他人についての一般論でなく、自ら悲と苦を痛感して李坊ちゃまがこの恨みを解いてくれるのを期待する言葉である。

(6) 女の恨めしい心、五六月に霜が降る — 忿怒 —

意味は「女の恨めしい（きつい）心、五六月に霜降る : 女がひとたび気分を害して憎むとか恨みを抱けば五六月にも霜柱が下りるほど恐ろしくきつい…」（標準）である。「霜柱」は「霜」であろう。

新任地方長官下学道の誘惑を春香が「不更二夫」を守って固く拒絶するので拷問するが、引き続き拒絶して半死半生で荒々しく答えた言葉である。卑賤な身分の退妓の娘の人権くらいは無視する新任地方長官に対する忿怒が爆発した口ぶりである。一般論でなく自らの切実な心情である。

(7) 盲人が間違っているか、溝が間違っているか — 悲運 —

李家源の注釈に「諺。諺に『盲人が溝を叱る』と注した。

この形態の意味は「盲人溝を叱る : 溝に落ちた盲人が自分の欠陥を考えずに溝だけを叱るという意味で、自分の欠陥は考えずに罪の無い人や条件のせいにばかりする場合を比喩的に言う言葉」（標準）である。盲人をあざ笑う諺である。

しかし上の標題の形態は、使用状況と意味が異なる。盲人が春香の依頼で夢解きをするため獄に行く途中で溝に落ちて嘆く言葉である。「ああ、ああ、わが運命よ。この世界と天と地、太陽と月と星、物の厚薄長短を知らず、夜中のように過ごしていて、この羽目になったのだなあ。ほんとうに『盲人が間違っているか、溝が間違っているか』だ。盲人が間違っているのであって、始からある溝が間違っていようか」と悲しげに泣く。盲人が自らの視覚障害を悲しむ心情を表現した。

(8) 婿は百年の客 — 婉曲 —

この意味は「婿は百年の客人（百年之客）なり　：　婿は永遠の客人という意味で、婿は岳父と丈母にとって常に粗略に対応できない存在であること…」（標準）である。李家源の注釈には「婿は百年の佳約を結んだ客人」と若干違うように説明している。

使用状況は、暗行御使（王の密偵）となって零落した乞食の扮装で南原に帰って来た李夢龍が、春香の母に言った言葉である。春香の母が自分をなかなか分らないので「婿は百年の客人と言うから、どうして私を知らないのか」と、間接的に李夢龍であることを知らせつつ軽く粗略さを恨んだのである。

(9) 南風に蟹が目を隠すように　—可笑—

この意味は「南風に蟹目を隠すように　：　食べ物非常に速く食べてしまう様子を比喩的に…」（標準）である。

使用状況は他の項目とは違い口演者による批評である。李夢龍が、香丹（春香の家の使用人）の持って来た冷飯と薬味と水を混ぜて手で一度に食べる場面である。本文は「御使喜んで『飯よ、お前を見てから久しい』、色々を一緒にぶち込み匙に触れることなく手で混ぜて片側に寄せたが『南風に蟹目隠すように』食うのだなあ」の如くである。末尾の「食うのだなあ」という感嘆形で口演者の感嘆を表現した。正体を見せてはいけない暗行御使の迫真感あふれる演技である。

(10) 天方地方　—愛情—

この意味は李家源の注釈に「方向を失いあたふたと忙しく過ごすこと。『東言解』に『天方地方　心忙足忙　何上何下…』と注し、『標準』は「天方地方〔副詞〕非常に急いであたふたとやたらに走り回る様子」と説明している。

使用状況は春香が夜遅く獄を訪ねて来た母に「お母さん、何故いらっしやったの。悪い娘を思ってあたふたと（天方地方）行き来してから怪我しやすいです。これからはいらっしやらないで」と言ったのである。元来「天方地方」には卑下的な含意があるが、ここでは母に対する感謝と申し訳ない気持ちと愛情が感じられる言葉である。

(11) 植えた木が折れ、念を入れた塔が崩れた　—絶望—

この意味は上記（1）を参照いただきたい。辞書に「念を入れた塔が崩れる

か：力を尽くし誠意を尽くした事はその結果が必ず無駄にならないこと…」と記す。しかしこの言葉の内容は正反対である。一面だけの真実を引用する諺は、時に正反対の諺が有るものである。

使用状況は母と共に李坊ちやまが獄を訪ねて来たと聞いた春香は喜ぶが、彼が及第もできず零落した姿を見て絶望して母に言った言葉である。「漢陽城（ソウル）の旦那様を、七年大干の日照りに喉の枯れた百姓が雨を待つたとしても私ほど誠意を尽くしただろうか。植えた木が折れ、念を入れた塔が崩れた。憐れむべきだ、この私の身の上」と言った。

(12) 天が崩れても這い出る穴がある — 葛藤 —

この意味は「天が崩れても這い出る穴がある：どんなに困難な境遇に処したとしても生き延びる方途が現れる…」(標準)である。

使用状況は春香が自身の死後に母の悲惨な末路を想像して泣くので、李夢龍が慰める言葉である。この時、暗行御使李夢龍は春香を救う確実な計画を持っているが、正体を現すことが出来ないので「這い出る穴」という言葉が空虚に聞こえるしかなく、心理的葛藤を覚えているのである。

【知見1】<文脈研究は諺辞典に無い情報を付け加えることが出来る。>

諺の機能論や本質論において諺辞典あるいは研究者の知識に依拠する場合が多いことは周知の事実であろう。諺辞典はそれぞれの諺の形態と意味に関して、多様な文脈から抽象し一般化ないし平均化した記述を搭載する。それを基礎に諺の機能を「真理」とか「教訓」とか「風刺」等々に分類するとしても、その内容は一般化を免れることが出来ない。文脈中の生き生きした活躍の状態を覆い隠す場合もあるであろう。反対に個別文脈に注目すればより多様で絶妙な役割を果たす実例を見ることが出来る。具体的には上記の12項目で「意味」と「使用状況」を比較して見られることを希望する。例えば(1)「念を入れた塔」は所謂「真理」を「説得」場面で根拠として使用したものであるから諺辞典の範囲内と言うことも出来るが、(10)「天方地方」(12)「這い出る穴」で言葉の内に隠れた話者の「愛情」や「葛藤」は諺辞典の範囲を超えている。

下の<表2>で「場面中の表現意図による多様な使用状況」を整理し再確認してみよう。

	意味内容の分類	使用状況
(1)念を入れた塔が崩れ	真理	説得
(2)雲雀麻の実つつくように	形容	非難
(3)鵬が出て鳳が出	真理	矜持
(4)酸っぱくて渋い 満州杏	形容	戯弄
(5)苦尽甘来	真理	実感
(6)女の恨めしい心	真理	忿怒
(7)盲人が間違っているか	真理	悲運
(8)響ひ百年の客人	真理	婉曲
(9)南風に蟹目を隠すように	形容	可笑
(10)天方地方	形容	愛情
(11)念を入れた塔が崩れた	反真理	絶望
(12)這い出る穴がある	真理	葛藤

<表2>多様な使用状況

1-3-2. 変化

ここでは「変化」という用語を「表現意図に従って形態を大きく変化させた場合」を指して用いる。上記1-3-1. の中で(1)(3)(4)(7)(11)が該当する。

(1) 念を入れた塔が崩れて植えた木が折れるか

この文句は「念を入れた塔が崩れるか」と「植えた木が折れるか」を接続語尾「て」で結合させたものと言える。前半は今も「念を入れた塔が崩れるか」の形態で使うが、後半は諺辞典に見えないようである。あるインターネットサイトの「木に関する諺」という諺集の中に正にこの用例を書いた物だけを見た。

結合された前後の間の関係はおそらく類似反復であろうが、後半の「植えた木が折れるか」の意味は少し考察する必要がある。「誠意を尽くしてした事はその結果が必ず無駄にならない」という意味の内の「無駄にならない」の部分は「折れるか」が担当するが、果たして「植えた木」が「誠意を尽くしてした事」の部分に該当するか。答えは「そうだ」である。山野に生じた木は燃料として折られるものだが、人が庭や街路に誠意を尽くして植えた果樹や花木のような

ものは無暗に折られないからである。

それならば類似反復の<修辭的意図>は何であろうか。まず口演において<音律を正しく>し、次に違う言い方をすることで<聴衆の理解>を容易にする目的があったと考える。

参考いくつか異本を確認したが、名山大刹に祈ろうと説得する場面自体がまるで無く比較できなかった。しかし『申在孝パンソリ辞説集』「春香歌<男唱>」中には、房子が李坊ちゃまに春香の出生経緯と履歴を言う場面があって「(月梅が) 四十を超えた後に成千総と結ばれ子を得ようと、智異山の各寺刹に百日山祭、供物をし、一日十五日には沐浴齋戒し閔帝廟に香を炊いて祈り、至誠天に通じて巧く身ごもった」と言った。これを全州版と比較すれば、「子を得ようと」の次に説得場面が無く「念を入れた塔云々」という月梅の説得する言葉も無い。結局「植えた木が折れるか」という文句はいくつかの異本や諺辞典では確認できなかった。全州版に依拠すれば某口演者の特有の添加かも知れない。朝鮮時代当時の諺なのか口演者が新たに作った諺か現時点では明白ではない。

(3) 鵬が出て鳳が出、將軍出て竜馬出、南原の春香出て梨花春風華やか

この文句は「鵬が出て鳳が出る」「將軍出て竜馬出る」という2個の似た諺を繰り返した次に、それらの形態を真似てパロディー(parody)手法で「南原の春香出て梨花春風華やか」を新たに加えた。単純に「春香出て李坊ちゃま出る」としない機知に富んだ表現である。「南原」が現場の地名だけでなく「南の原」として「春風」すなわち「春の香り」を修飾する。その春香が南原に出たから、李坊ちゃまという美しい「梨花」と春香という「春風」すなわち暖かい春風が良い連れ合いになって「華やか」で美しいという、豊富な内容を含んでいる。

(4) 酸っぱくて渋い満州杏を食べようというのか

李家源の注釈に「諺」とだけ注した。しかし諺辞典にはこの形態が搭載されていない。代りに意味が近いものとして「満州杏食べた後味」がある。事実は確かでないが、有名な「愛の歌」中で「何々を食べようというのか」という質問形式を反復するが、「何々」は名詞でなければならないから「酸っぱくて渋い満州杏」という名詞句を作り出したのではないか。

異本を見ると、金世宗制唱本と萬汀版にこの文句が伝わっている。

(7) 盲人が間違っているか、溝が間違っているか

上記 3.1.で記述したように諺「盲人溝を叱る」を変化させたものと思われるが、形態が大きく変わったのと同時に視点が変わった。諺「盲人溝を叱る」は他人が盲人をあざ笑う「他人視点」であるのに比べて、盲人の台詞である「盲人が間違っているか、溝が間違っているか」は盲人が自分の障害を嘆く「自己視点」である。言い換えれば盲人の台詞である故に当然に盲人の「自己視点」に変わらざるを得なかったのである。

(11) 植えた木が折れ、念を入れた塔が崩れた

この文句は上記(1)と似ているが「念を入れた塔云々」と「植えた木云々」の順序が反対になった上に、「折れるか」ではなく「折れた」に替ることで意味が反対に「否定（反語）」から「既成事実」に変化した。すなわち(1)「誠意を尽くしてした事は結果が無駄にならない」から(11)「結果が無駄になった」に変化したのである。

【知見 2】 <表現意図に従って形態を大きく変化させた場合がある。>

この節の「変化」で見えて来た例は、諺を文脈に合うように加工した結果、形態が目に見える程度に変化したものである。これらを口演者や詞章作者の創作と言っても誤りではない。しかし一方に加工しない諺を使っている場合も多く有る。それらまで口演者や詞章作者の創作と言ってはいけない。やはり大部分の諺を「昔から民間に伝えてきたもの」と見るのが妥当である。

	原形	出現	技法
(1)	念を入れた塔が崩れるか	念を入れた塔が崩れ、植えた木が折れるか	対句
(3)	鵬が出て鳳が出る 將軍出て竜馬出る.	鵬が出て鳳が出、將軍出て竜馬出、 南原の春香出て梨花春風華やか	対句 ・パロディー
(4)	満州杏食べた後味	酸っぱくて渋い満州杏	変形
(7)	盲人溝を叱る	盲人が間違っているか、溝が間違っているか	変形
(11)	念を入れた塔が崩れるか	植えた木が折れ、念を入れた塔が崩れた	否定 対句

<表 3> 変化 一目立つ形態変化一

1-3-3. 変遷

「変遷」は時代差と地域差である。古語と現代語、方言と別の方言や標準語との間の差異を指す。時間や地域を経過して形態や意味が変化することである。上記の「変化」と違って、単語次元が中心である。

ここでは差異が見える(2)(6)(8)(10)(12)と共に、差異が別に見えない(5)(9)も注目する。現代と朝鮮時代が同一である場合は其諺の起源を少なくとも朝鮮時代まで遡れるからである。また地域差が無ければ全国共通の形態と意味であったと見る事が出来る。

(2) 雲雀が麻の実をつつくように

李家源の注釈に「諺。『중지리새 (雲雀)』は『중달새』の方言。あるいは『중지조 (従地鳥)』。『열씨 (麻の実)』は『삼씨』の方言。麻子」とする。

これらの方言に関して辞書に「중지리새 [名] 動物。→ 중다리 (標準)、「열씨 [名] 삼씨의方言 (咸北)」(高麗大学校韓国語大辞典、以下「高麗」と略す)と書かれている。そして「雲雀麻の実つづくように [北朝鮮語] 絶え間なくしゃべる様子を…」(高麗)とも言う。この諺を北朝鮮語とする理由は良く分からない。しかし事実なら、パンソリ口演者の根拠地が湖南地方すなわち全羅道であったこととの関係をどう説明すべきか不審である。これと関連して「중지리새/중달새/중다리 (雲雀)」「열씨/삼씨 (麻の実)」の全国方言分布を知り、分布の経緯を言語地理学的に考察できればと思う。(利用しやすい)『全国方言大辞典』を期待するものである。

(5) 「興尽悲来」「苦尽甘来」昔からあるが

李家源の注釈に「興尽悲来」には漢文出典を明記するが、「苦尽甘来」には諺とだけ記した。この書で諺とするのは固有語が原則であるが、「苦尽甘来」は漢文である。なぜ諺だと書いたのであろうか。朝鮮時代に『耳談』『旬五志』『東言解』のような、固有語の諺を漢文表記して見出し語とし、漢文で意味を説明した漢訳諺集が有るには有る。然るに出典を全く書いていない。思うに漢文の出典を知ることが出来ずに止むを得ず「諺」扱いしたのではないか。

じつは「苦尽甘来」は現代中国語にも有り、「百度百科」に「苦尽甘来, 汉语成语, 出自《西厢记》」と明記している。『西廂記』は中国元時代の雑劇で

ある。李家源の注釈書の数多い参考文献中に『西廂記』は無い。おそらく元・明時代に中国から入って来た成語を音読したのが広く民間に普及したのではないか。

(6) 女の恨めしい心、五六月に霜が降る

李家源は「諺。劉安の〔淮南子〕に『鄒衍事燕恵王尽忠、左右讃之、王繫之獄、仰天而哭、夏五月天為之下霜』、張説の〔玉箴〕に『匹夫結憤、六月飛霜』、鄭麟趾の〔高麗史 列伝〕に『一女怨天、六月霜降』と注した。これに従えば中国故事に由来する固有語の諺であり、元来「鄒衍…仰天而哭」「匹夫結憤」のように男の心情であったが、『高麗史』（朝鮮文宗 1年 1451）に至って「一女怨天、六月霜降」と女の心情に変わった。この漢文の文句を固有語に移して諺になったのである。

ところが現代の辞書には「女の恨めしい（きつい）心、五六月に霜降る : 女は一度心が振じれて憎んだり恨みを抱けば五六月にも…=女が恨みを抱けば五六月にも霜が降る」（標準）と記している。興味深いのは見出しの諺の中で「恨めしい（きつい）」と換言したことである。

まず「恨めしい心 곡(曲)한 마음」の内「곡(曲)한」の意味が近ごろになって諺の文脈に合わない感じがして、「독(毒)한」という換言をしたのではないか。事実、三中堂文庫『春香傳』は全州版に依拠した活字化を原則としているが、容易に解釈するため「抱いた恨み」に替えた。理解しやすいと共に『高麗史』の「一女怨天、六月霜降」とも似ている。また「女が恨みを抱けば」（標準：「同じ諺」）とも似ている。

(8) 婿は百年の客

文脈は「婿は百年之客と言うから、どうして私を知らないものか」であるが、李家源の注釈は「婿は百年之客なり」という部分を諺と認定し、これに対して「諺。婿は百年の佳約を結んだ客人」と注した。一方、辞書は「婿は百年の客人なり : 婿は永遠の客人という意味で、婿は岳父・丈母にはいつでも粗略に対応できない存在…」（標準）のように記述している。（高麗）も似た説明である。辞書のような解釈が有力ではないか。

別の問題で、この諺から派生した次のような諺が近ごろ広く普及している例

を付け加えてみる。「婿は百年の客人なり、嫁は終身の家族なり : 本来他の家の子である嫁は自家の人になっても気楽だが、婿はどうしても難しい客人のようであり続ける」(児童書『小学校の教科書に出る諺の解釈』)。

(9) 南風に蟹が目を隠すように

李家源の注釈に「諺。『마파람 [マパラム]』は南風の貶称。麻風。『게눈 [ケヌン]』は蟹眼。飲食を何時の間に食べたのか分からないほど速く食べてしまうことを言う言葉」と注した。現代と同じであるから少なくともパンソリの時代から変わり無く伝えて来たことが分かる。

ただし「마파람 (맛바람) [マパラム・マッパラム]」という単語が興味深い。辞書には「舟人たちの隠語で南風を言う言葉 ≒ 景風、麻風、前の風、午風」とする。「마 [マ] (麻)」が南を意味する理由は良く分からないが、一部に「앞 [アプ] (前)」が音韻変化で「마 [マ]」になり、南側を「앞 [アプ] (前)」と呼ぶ集団で生じた単語」という推測が有る。真偽のほどは地理、歴史、等各方面から慎重に考察してみなければならぬ。

(10) 天方地方

李家源は「諺。方向を失いあたふたと忙しく過ごすこと。[東言解]に『天方地方 心忙足忙 何上何下』と注した。『東言解』は朝鮮時代の漢訳諺集で、朝鮮の諺を漢文に翻訳して意味を漢文で説明した諺集である。『東言解』の説明中の「心忙足忙」が「あたふたと忙しく過ごす」という部分に該当し、「何上何下」が「方向を失い」に該当する。ところが「天方地方」は固有語ではないが「東言」すなわち朝鮮の諺と認識したのである。現代に入って同じ諺として「天方地軸」も使われるようになった。

(12) 天が崩れても這い出る穴がある :

辞書に「天が崩れても這い出る穴がある : どんなに困難な境遇に処したとしても生き延びる方途が現れるという言葉」(標準)と記述している。「穴」を春香伝に「구기 [クンギ]」、辞書に「구멍 [クモン]」とする他は同じである。朝鮮時代から現代まで伝わる諺で前記の児童書『小学校教科書に出る諺の解釈』にも紹介される程である。

次に「구멍 [クモン]」と「구기 [クンギ]」に「関しては、現代語구멍 [ク

モン)」に対してパンソリの「궁기〔クンギ〕」が古語だと言える。さらに地域差もあって、辞書には「궁기〔クンギ〕〔名詞〕方言。구멍〔クモン〕の方言（済州、咸鏡）」（高麗）と記す。全国分布についてより多くの情報が必要であるが、古語「궁기〔クンギ〕」は首都では無くなり周辺地域にだけ残っているようである。

【知見3】 <大きな変化は無くても単語次元で時代差や地域差を発見できる。>

>

以上見たように、諺の形態は似ていても単語次元で見ると、方言や古語として地域差や時代差を帯びたものが有る。簡単に整理すると下の<表4>のようである。「差異」項目中の∩印は積習合の記号で「～であり」「～であると共に」と理解すれば良い。

ここで一二付言する。前節の「変化」中にも変遷を発見できるが、変化の面を主な問題と見て変遷の面は省略した。また、全州版「春香伝」において諺だけでも相当数の「変遷」例があることから見て、本文全体ではより多くの変遷を見られるのではないか。古典文学コーパスが有ればと思う。

	単語	差異
(2)	종지리새 (雲雀)	方言∩古語
(2)	열씨 (種、実)	方言∩古語
(5)	고진감래(苦盡甘來)	漢語
(6)	곡(曲)한 (振じれた、恨めしい)	古語
(8)	百年之客	古語
(9)	마파람 (南風)	方言∩位相語
(10)	天方地方	方言∩漢語
(12)	궁기 (穴)	方言∩古語

<表4> 変遷 — 差異の種類

1-4. まとめ

今回の研究を通して武田勝昭(1996)が強調した「諺の文脈付き収集」の有効性と大切さを確認できた。すなわち諺辞典の次元を超えて、生き生きした使用状況と共に多様な変容を見ることが出来た。詳細は省略するが研究結果として次のような知見を得た。

[知見1] 文脈研究は諺辞典に無い情報を付け加えることが出来る。

[知見2] 表現意図に従って形態を大きく変化させた場合がある。

[知見3] 大きな変化は無くても単語次元で時代差や地域差を発見できる。

今後この成果をどう生かすことが出来るであろうか。まず「春香伝」の生き生きした使用状況と変化の実例は、諺の本質論と機能論に良い材料を提供し、他の時代や作品を見る時にも参考になるであろう。次に「春香伝」は諺だけでなく方言と古語の実例も提供する。一つ一つの用例が方言史学、国語史学の窓かつ資料であると言える。

一方、今後備えるべき点もある。まず古典中の諺注釈が必要である。「春香伝」だけでも中国の故事成語についての注釈は多いが、固有語の諺に関しては説明どころか諺であることさえ表示が無い。しかし李家源註釈『春香傳』は例外のようである。次に、上記の方言史学と国語史学の窓という面で「全国方言辞典」と「古典コーパス」「現代語コーパス」が必要である。コーパスは文脈を知るためである。筆者の知識不足のせいかわからないが KAIST corpus を使用しづらく、国立国語院の検索も文脈収集が難しかった。検索語「諺」で用例(文学、実用書、新聞等)を探せるウェブサイトが有れば良いであろう。

おわりに

以上に紹介した2年度分の研究成果の特徴と今後の課題を簡単に記す。

全体を通じて、近世以前の文芸資料を主たる調査対象として、文脈付き収集の有効性を確かめる過程であった。

2019年度は、日本の説経「さんせう太夫」や朝鮮のパンソリ「春香伝」という口演文芸を対象として諺使用の状況を精査した。どちらも諺辞典に無い生き生きした情報を加えることが出来た。特に「春香伝」については12例すべてに

ついて、文脈中の「使用状況」を解明しつつ、意図的な「変化」と、用語の時代差・地域差を反映した「変遷」という観点を指摘して実例を検討した。

2020年度は、古典文芸における諺資料にどのような物が有るかを、主要なものに限られたが用例を示しつつ展望した。従来こうした先行研究は見当たらないので、今後の研究への道案内として役立つ内容になったと言える。

最後に今後の課題について記す。筆者が実行した文脈付き収集は諺の生き生きした使用状況を見せてくれたが、「木を見て森を見ない」弊害を避けるには、先行の諺辞典や諺研究に目配りして、常に諺本質論・諺機能論への照射を意識することが大切である。

さらに、今回チーム研究には「諺を通して国際的かつ歴史的に文化や思想を窺い知る」狙いが込められていたが、拙稿に限って言えば、個々の用例を通して自ずと感じ取られるものの（特に成果③）、これを正面からテーマにするまでには至らなかった。今後の課題の一つと言える。

また現時点における諺検索の不自由を嘆いているが、今後の改善に敏感に迫っていくことも必要な課題である。

<参考文献>

- ・金鉉龍編著(1992), 『板本및校註 烈女春香守節歌』, 亞細亞文化社
- ・全圭泰註解(1980), 『春香傳』, 三中堂文庫,
- ・姜漢永校註(1978), 『申在孝관소리사실集』 「春香歌<男唱>」, 普成文化社
- ・李家源註釋(1975), 『春香傳』, 正音社
- ・김세종제 춘향가 사실 (김경아 창), 사단법인 우리소리
金世宗制春香歌辭說 (김기영 노래)
- <https://pansory.com/category/관소리의%20이해/춘향가%20사실> (検索日:2020. 05. 15)
- ・재미있는 우리 속담 13 ' (김영희 글), 국립국어원 '샘표 마침표'
「面白い我が国の諺13」 김윤호著 国立国語院「休止符 終止符」
- <https://news.korean.go.kr/index.jsp?control=page&part=view&idx=8798>
(検索日:2020. 05. 15)

- 국립국어원 『표준국어대사전』 国立国語院『標準国語大辞典』
<https://stdict.korean.go.kr/search/searchDetailWords.do>
- 고려대학교 『한국어대사전』 (NAVER 국어사전)
高麗大学校『韓国語大辞典』 (NAVER 国語辞典)
<https://ko.dict.naver.com/?version=1>
- 武田勝昭(1996), ことわざ学の展望, 『月刊言語』Vol. 25 No. 7, 大修館書店
- 藤村美織(1996), 時代と共に生きることわざ, 『月刊言語』Vol. 25 No. 7, 大修館書店

ことわざ、故事成語、慣用句・表現、 四字・三字熟語について

—均衡コーパスと日経テレコンを使用した分析、
および理解表現として日本語学習で扱うための提案—

平井 一樹

キーワード：日経テレコン、均衡コーパス、ことわざ、故事成語、慣用表現、
四字熟語

[目次]

はじめに

1. 先行研究
2. 定義
3. 使用した2つのコーパスとその特徴
4. 検索語の選択基準
5. 「ことわざ」について
6. 「故事成語」について
7. 「慣用句・慣用表現」について
8. 「四字・三字熟語」について
9. 実際の日本語学習への応用

さいごに

はじめに

ことわざ、古事成語、慣用句・慣用表現や四字・三字熟語は、日本の生活の中に溢れている。幼稚園から中学校での学習、高校受験や大学受験、就職・昇進試験に至るまで、基礎的な教養としてほとんどすべての日本人が学習しているものだ。しかし、外国人や留学生への日本語教育の中では、教科書に一部のコラムや資料として付けられていたり、ページの欄外で付属的に取り扱われていることが多い。では本当にそれほど必要ではないのだろうか。日本語能力試

験(JLPT)や日本留学試験、大学での一般教養や専門課程の教科書・資料、課題図書、レポートの参考文献として必要な書籍や業界新聞・専門雑誌などの中には、これらの言葉が多く出現している。それを実証するために、本稿では日本経済新聞社が提供する「日経テレコン」というデータベースを使い、それぞれの出現回数をカウントした。

「日経テレコン」にアーカイブされた記事や文章は、印刷物として校正も行われ、試験の読解問題に引用されたり、大学での学習に必要な留学生の学びの対象となるであろう新聞の全国紙や地方紙、経済・ビジネス雑誌などの膨大な記事や文章が収録されている。この「日経テレコム」の検索機能を使用して、これらの言葉の出現数を算出した。また、使用例において、これらの言葉が理解できないと読解に支障が出たり、逆に理解できれば読解が容易になることを説明する。読解能力においてこれらの言葉がいかに大切かを日本語学習者に提示したい。そして、平井(2020)で課題とした実際の日本語学習の中での習得のための教材や教室活動、学習者の気持ちを考えた学習の取り組み方などについて、提案を行いたい。

1. 先行研究

平井(2020)では、留学生の日本語のアウトプットの観点から、これらの言葉が作文でどれだけ使用されているか調査を行った。6つの書き言葉コーパス(現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)(国立国語研究所 2011)、日本語教育のためのタスク別(YNU)書き言葉コーパス(金澤 他 2013)、作文対訳データベース(国立国語研究所 2009)、JCK 作文コーパス(金井 他 2016)、日本・韓国・台湾の大学生による日本語意見文データベース(伊集院 2011)、日本語学習者作文コーパス(李 他 2013))を使用し、実際に留学生が作文でどのくらいの頻度でどのように使用しているかを調べた。その結果は、非常に使用頻度が少ないものであり、文中での使い方にも誤用が見つけられた。なお、平井(2020)は学会発表を行ったが、参加者のコメントの中で、これらの言葉が「使用表現でなくとも理解表現であれば良いのではないか」という意見をいただいた。読んだり聞いたりして理解できるほうが大切なのではないかという

考えは、確かにその通りである。コーパスやデータベースを実際の日本語学習の中で利用する研究は、内海（2017）において学習者が自ら均衡コーパスを用いて、共起表現の自己修正を行うことに取り組んでいる。慣用表現の後件が動詞など活用がある場合、いくつかの変化の可能性を条件検索しなければならないが、実際にどのような文脈で使用されているか記事や文章を探すのには、非常に有効な学習活動となろう。寺島（2011）では、学習者が能動的にコーパスを使用して学習を進める「データ駆動型学習（Data-driven-Learning）」によって、オーセンティックな言葉や文章に大量に触れる取り組みを紹介している。その中で、コンコーダンスーとして国立国語研究所の「KOTONOHA」や「JPWac-L2」を使用し、検索語を中心にその前件と後件が表示される機能を活用して、学習者自らがその言葉の実際の使用方法を調べることは有効な学習ストラテジーを与えることになると提案している。コロケーション、共起表現に焦点を当てた学習方法の重要性は、今後ますます高まると思われる。

2. 定義

本稿では「ことわざ」、「慣用句・慣用表現」、「故事成語」、「四字・三字熟語」の4つのカテゴリーについて、コーパスとデータベースで検索し、使用度数と使用形態を抽出するが、それぞれの言葉の定義は以下の通り、正確を期するために平井(2020)の定義をそのまま援用する。

1. 「**ことわざ**」：古くから言い伝えられ、教訓や風刺を含み、定型句としてそのままの形で使われるもの。

2. 「**慣用句・慣用表現**」：日常生活における行動や様子などを比喩的にまとめた言葉のかたまり・定型句。体の部位や動物、概念的な事象も含まれるが、字面を見ただけでは意味を理解することが困難な特別な意味を持つもの。

3. 「**故事成語**」：中国の古典などにある物語や出来事に起源を持つ通常2～4つの漢字で構成される言葉。

4. 「**四字・三字熟語**」：4つ、または3つの漢字から成り、故事成語のよう

な物語は起源としない。同じ意味の言葉を繰り返したり、反対の意味をつなげたりなどの特徴がある。それぞれの漢字の意味を使って説明することができる。

3. 使用した2つのコーパスとその特徴

現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ) (国立国語研究所 2011) (以下、均衡コーパス) では、慣用表現である「案の定」が検索結果では最も多くなったが、他の言葉と比較して通常感覚から「案の定」が最も多く使われているとは考えにくい。また例えば「目から鱗」を頻用しているウェブサイト上のブログや相談コーナーも対象にしていることは、社会の実態に合っているかもしれないが、検索結果に重複が見られる現象があり、絶対数のカウントには相応しくないとも言えよう。(4-1 で説明) 日経テレコンでは、たとえスポーツ紙であっても、印刷物という性格上文章の校正がしっかり行われていたり、同じ言葉の多用を避けるなど文章自体の信頼性は比較的高いと思われる。それが日経テレコンで検索し直そうと考えた理由の一つでもある。また、検索結果の数量は日経テレコンが圧倒的に多い。(以下の 5-1 において、慣用句「寝耳に水」を例に、検索結果の実際の画面 (資料 1) と表にまとめたもの (表 1) を提示した)

3-1. 現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ) (国立国語研究所 2011)

書籍全般、雑誌全般、新聞、白書、ブログ、ネット掲示板、教科書、法律など、最大 30 年間 (1976~2005) の出版物等から無作為にサンプルを抽出しており、それゆえ「均衡」と呼ばれる。語数は 1 億 430 万語を有する日本最大の「書き言葉均衡コーパス」である。検索システムとして、文字列検索が可能な「少納言」、形態素情報を付加した「中納言」がウェブサイトから利用できる。(平井 2020) 「少納言」は 2021 年 2 月 12 日に公開を休止しており、2021 年 12 月下旬の再開を予定している。そのため現在は、代替検索エンジンとして「梵天」(2021 年 12 月 24 日公開終了) が提供されている。

なお、少納言 (梵天) では、例えば「目から鱗」を検索すると、検索結果において、新しい年代順で上から検索結果番号 6 から 12 がすべて「大人のための英

文法がよくわかる入門講座」(国生浩久(2002), 中経出版)の「“目からウロコ”の新発想」という言葉からカウントされており、それが60件の検索結果中、7件を占めている。また、他の言葉の検索でも「Yahoo!ブログ」や「Yahoo!知恵袋」といったウェブ上の文章において、重複してカウントした結果が散見されるなど、結果に何らかのフィルターを掛ける必要があるようである。それゆえ、本稿では、この均衡コーパスを使用した平井(2020)の結果も比較しながら、新たに以下に説明する「日経テレコン」を検索データベースとして使用した。

3-2. 日経テレコン（日本経済新聞）

「日経テレコン」は、過去40年の日経各紙や一般全国紙、47都道府県の地方新聞、業界の専門紙、海外紙の日本語記事、ビジネス雑誌、日経専門雑誌、ニュース速報、企業情報、調査・統計・マーケティング情報から書籍・年鑑まで、500を超える媒体から1億本以上のデジタル化された記事を収録している。ただし、あくまでそれらの記事や文章の記者や筆者、媒体各社から著作権などの認可を得て、日経テレコンへ提供されたものの中からという意味であり、各媒体の独自のデジタル・アーカイブ収録の全期間の全記事が検索対象となっているわけではない。つまり、例えば、朝日新聞社には「聞蔵Ⅱ」という明治の創刊号から最新版までの記事がアーカイブされた独自のデータベースのサービスがあるが、これが日経テレコンに全て提供されているわけではないのである。「寝耳に水」ということわざを「聞蔵Ⅱ」で全期間検索すると2355件のヒットがあるが、日経テレコンでの朝日新聞の検索結果は2234件で、多少のずれがある。これが他の各社のデータベースでどのくらいの相違があるかは、調査していないが、かなり大きいものもあるようである。本稿では、あくまで日経テレコンの検索結果を基準とすることとする。

4. 検索語の選択基準

「ことわざ」、「慣用句・慣用表現」、「故事成語」、「四字・三字熟語」の4つのカテゴリーにおいて、検索語の選択が恣意的なものになってはいけないため、一定の基準で選択を行った。本稿ではその対象として、中学・高校で

使用される代表的な2つの出版社の「国語便覧」から使用した。これら『クリアカラー国語便覧』（2013）数研出版、『原色シグマ新国語便覧—ビジュアル資料』（2007）文英堂は、大学受験や就職試験の準備などでも活用されるものである。2冊に共通して掲載されているものだけを選択し、それぞれの語数を確定した。

「ことわざ」	1 0 0
「慣用句・慣用表現」	4 0
「故事成語」	4 7
「四字・三字熟語」	7 3

（※具体的な言葉は以降に提示）

そして、均衡コーパスを使い、検索結果の数字をもとに多い順からソートし直し、一覧表を作成した。さらに今回は日経テレコンを同様に使用して、その検索結果の順位を優先し、均衡コーパスの順位を参考に付与した。これらの検索結果の絶対数はデータベースのサイズによるが、圧倒的に日経テレコンの数が多く、絶対数自体には注目しないものの、その数量には均衡コーパスよりも実際の「書き言葉」の使用実態が表れていると思われる。

4-1. 検索結果の具体例

以下、具体例として、慣用句「寝耳に水」を検索した媒体（資料1）とヒット数を提示する。（表 1-1 から表 1-4）

メインコンテンツ

- ホーム
- 記事検索
 - 記事検索
 - ナビ型記事検索
 - 日本経済新聞 (明治から現在まで)
 - 新報記事
 - 企業検索
 - 人事検索
 - 業界情報
 - ターゲットリスト作成
 - 新報トレンド
- ニュース・最新情報
 - ニュース
 - きょうの新報
 - 最新の記事
 - 日経ビジネス
 - 週刊東洋経済
 - 週刊ダイヤモンド
 - 週刊エコノミスト
 - プレジデント
 - 週刊金融財政事情
 - アジア経済ニュース
- データ＆ランキング
- 専門情報
- テーマフォルダ

ホーム 記事検索(画面内検索)

22431件です 新しい順に 50 件ずつ 見出しを表示 印刷

検索: 電機に水 再検索 履歴

絞り込みキーワード検索 (記事の分類・主題語で絞り込み検索します)

テーマ	業界	会社・団体・人物	一般用語				
政策・制度	9902	公的機関・大学	5825	政府	1670	電機に水	2796
行政	9753	銀行・信用金庫	736	自民党	1252	書籍	1257
事件・裁判	3753	大企業、コンビニ	448	安倍晋三	910	興産	1058
政治運営	3741	建設	436	民主党	522	知事	905
選挙・総選挙	2689	新聞・放送・出版	427	小沢一郎	409	社長	866
裁判	1556	自動車、二輪車	425	米国政府	400	後援	723
社会問題	1106	電力・ガス	421	小泉純一郎	373	市長	683
その他	1041	鉄道、バス、航空	371	中国総	367	労働	646

分類から選ぶ 企業活動 政治 経済 技術 社会 業界 地域 記事種別

検索条件 詳細 初期の検索条件 現在の検索条件を保存 特定の記事を除く クリッピング登録

期間 1か月 3か月 6か月 1年 全期間 YYYYMMDD ~ 更新 図

すべての媒体を選択/解除 (英文価格を除く) 現保を探す すべて展開 閉じたもの ヒットした媒体を表示

新聞 (20309)	雑誌 (1380)	ニュース (506)
<input checked="" type="checkbox"/> 日経各紙 (2281) <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 日本経済新聞朝刊 (796) <input checked="" type="checkbox"/> 日本経済新聞夕刊 (233) <input checked="" type="checkbox"/> 日経産経新聞 (316) <input checked="" type="checkbox"/> 日経MJ (広域新聞) (52) <input checked="" type="checkbox"/> 日本経済新聞電子版 (293) <input checked="" type="checkbox"/> 日本経済新聞電子版セクション (45) <input checked="" type="checkbox"/> 日経フレックス (25) <input checked="" type="checkbox"/> 日経金融新聞(*) (119) <input checked="" type="checkbox"/> 日経地方経済画 (401) <input checked="" type="checkbox"/> 日経プラスワン (1) <input checked="" type="checkbox"/> 日経マガジン(*) <input checked="" type="checkbox"/> 日本経済新聞号外 <input checked="" type="checkbox"/> 日本経済新聞 (明治から戦後) 	<input checked="" type="checkbox"/> ビジネス総合 (783) <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 日経クロスデック (18) <input checked="" type="checkbox"/> 日経クロストレンド (2) <input checked="" type="checkbox"/> 日経ビジネス (171) <input checked="" type="checkbox"/> 週刊東洋経済 (103) <input checked="" type="checkbox"/> 東洋経済オンライン (72) <input checked="" type="checkbox"/> 週刊ダイヤモンド (115) <input checked="" type="checkbox"/> 週刊エコノミスト (128) <input checked="" type="checkbox"/> ニュースウィーク日本版 (7) <input checked="" type="checkbox"/> ニュースウィーク日本版オフィシャルサイト (9) <input checked="" type="checkbox"/> プレジデント (12) <input checked="" type="checkbox"/> プレジデントオンライン (29) <input checked="" type="checkbox"/> フォーブス ジャパン (1) <input checked="" type="checkbox"/> WEDGE (4) <input checked="" type="checkbox"/> 広業経済レポート <input checked="" type="checkbox"/> ちくおか経済 (1) <input checked="" type="checkbox"/> 財界九州 (4) <input checked="" type="checkbox"/> 日経トップリーダー (25) <input checked="" type="checkbox"/> TKC戦略経営者 (10) <input checked="" type="checkbox"/> 企業家倶楽部 (6) <input checked="" type="checkbox"/> JMAマネジメント (2) <input checked="" type="checkbox"/> 月刊グローバル経営 (3) 	<input checked="" type="checkbox"/> 速報ニュース (260) <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 日経速報ニュース <input checked="" type="checkbox"/> 日経速報ニュースアーカイブ (221) <input checked="" type="checkbox"/> 日経WHO'S WHO人事異動情報 <input checked="" type="checkbox"/> 決算サマリー <input checked="" type="checkbox"/> 朝日新聞速報ニュース <input checked="" type="checkbox"/> 毎日新聞速報ニュース <input checked="" type="checkbox"/> 読売新聞速報ニュース <input checked="" type="checkbox"/> 産経新聞速報ニュース <input checked="" type="checkbox"/> QUICKエクイティコメント (4) <input checked="" type="checkbox"/> サーチナニュース (8) <input checked="" type="checkbox"/> タウ・ジョーンズ債券・為替情報 (12) <input checked="" type="checkbox"/> DZH日本株・為替ニュース (15)
<input checked="" type="checkbox"/> 全国紙 (6724) <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 朝日新聞 (2234) <input checked="" type="checkbox"/> 毎日新聞 (1754) <input checked="" type="checkbox"/> 読売新聞 (1497) <input checked="" type="checkbox"/> 産経新聞 (1043) <input checked="" type="checkbox"/> 共同通信ニュース (24) <input checked="" type="checkbox"/> 時事通信ニュース (22) <input checked="" type="checkbox"/> ロイター通信ニュース 	<input checked="" type="checkbox"/> デレビ・放送 (146) <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> テレビ東京 経済ニュース <input checked="" type="checkbox"/> 日本テレビニュース (21) <input checked="" type="checkbox"/> エムデータTVウォッチ (125) <input checked="" type="checkbox"/> テレビ番組・報道情報 	<input checked="" type="checkbox"/> WEBメディア (100) <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> ハブポスト日本版 (7)

(資料1 (途中以降省略))

「寝耳に水」(検索結果) (※) 印のついている媒体は、現在休刊・更新停止中

【新聞】	20,307	奈良新聞	4	リム聴研エネルギーニュース	
<日経各紙>	2,281	紀伊民報	2	石油化学新聞	
日本経済新聞朝刊	796	日本海新聞	81	読報知	
日本経済新聞夕刊	233	山陰中央新報	31	ゴム報知新聞	
日経産業新聞	316	山陽新聞	113	Shoes Post ONLINE	
日経MJ(流通新聞)	52	中国新聞	521	交通新聞	14
日本経済新聞電子版	293	山口新聞	6	観光経済新聞	1
日本経済新聞電子版セクション	45	徳島新聞	77	旬刊旅行新聞	1
日経ヴェリタス	25	四国新聞	204	Aviation Wire	
日経金融新聞(※)	119	愛媛新聞	228	WING DAILY	
日経地方経済面	401	高知新聞	152	輸送経済	4
日経プラスワン	1	西日本新聞	742	東京交通新聞	5
日経マガジン(※)		佐賀新聞	256	交通毎日新聞	2
日本経済新聞号外		長崎新聞	158	日本海事新聞	
日本経済新聞(明治から戦後)		熊本日日新聞	365	日刊海事プレス	
		大分合同新聞	8	日本食糧新聞	26
<全国紙>	6,723	宮崎日日新聞	204	食品産業新聞	
朝日新聞	2,234	南日本新聞	163	冷食タイムス	2
毎日新聞	1,754	琉球新報	187	日刊薬業	7
読売新聞	1,496	沖縄タイムス	397	理事日報	11
産経新聞	1,043			理事ニュース	1
共同通信ニュース	24	<専門紙>	844	流通ジャーナル(※)	
時事通信ニュース	22	化学工業日報	27	日刊ドラッグストア(※)	
ロイター通信ニュース	39	日刊工業新聞	182	薬局新聞	4
NHKニュース	111	FujiSankei Business i.(※)	73	日本歯科新聞	
		中部経済新聞	21	日本消費経済新聞	1
<一般紙>	9,239	日刊自動車新聞	26	ニッポン消費者新聞	3
北海道新聞	981	鉄鋼新聞	16	健康産業流通新聞	1
北勝毎日新聞	16	日刊産業新聞	11	Medicament News(※)	
室蘭民報	2	電子デバイス産業新聞	3	週刊粧業	1
東奥日報	202	日刊電波新聞		粧業日報	1
デーリー東北	3	金属産業新聞		週刊粧業・訪販ジャーナル	1
岩手日報	202	コンクリート新聞		日用品化粧品新聞	
河北新報	425	日刊木材新聞	15	石鹸日用品新報	1
石巻かまぼく	3	日刊建設工業新聞	22	通販新聞	16
秋田魁新報	168	建設通信新聞	26	訪販ニュース	2
山形新聞	54	建通新聞	1	日本流通産業新聞	26
福島民報	57	建設工業新聞	3	日本ネット経済新聞	
福島民友新聞	5	北海道建設新聞	6	日本事務機新聞	
茨城新聞	61	建設新聞	1	日本印刷新聞	3
下野新聞	145	佐賀建設新聞		電経新聞	1
上毛新聞	4	長崎建設新聞		週刊ECN	4
埼玉新聞	19	鹿児島建設新聞	1	日本情報産業新聞(※)	
千葉日報	19	日刊不動産経済通信	2	セキュリティ産業新聞	
東京新聞	512	商業施設新聞	1	文化通信 連報版	1
神奈川新聞	72	住宅新報	13	映像新聞	1
新潟日報	125	週刊住宅	2	日本証券新聞	34
北日本新聞	54	住宅産業新聞		株式新聞	26
北国新聞・富山新聞	200	日本農業新聞	51	日刊商品投資特報(※)	1
福井新聞	74	農業共済新聞	2	ニッキン	15
山梨日日新聞	55	日刊水産経済新聞	7	保険毎日新聞	
信濃毎日新聞	253	水産タイムス	6	新日本保険新聞 生保版・損保版	
岐阜新聞	47	環境新聞	7	新日本保険新聞 連報版	
静岡新聞	292	The Waste Management		都政新報	15
伊豆新聞	8	水道産業新聞	3	会議所ニュース	
中日新聞	876	電気新聞	40	東商新聞	
伊勢新聞	6	ガスエネルギー新聞	3	納税通信	3
京都新聞	182	原子力産業新聞		税理士新聞	2
大阪日日新聞	26	石油通信	3	税と経営	
神戸新聞	192	フロン・ブタンニュース		労働新聞	10

(表 1-1)

シルバー新報	15
週刊玩具通信	
織研新聞	2
繊維ニュース	5
科学新聞	
日本教育新聞	1
<スポーツ紙・タ刊紙>	1,220
日刊スポーツ	495
スポーツニッポン(※)	216
スポーツ報知	291
サンケイスポーツ(※)	107
タ刊フジ	2
デイリースポーツ	109
【海外情報】	212
<欧米・各国>	117
フィナンシャルタイムズ	4
ジェトロ・ビジネス短信	10
地域・分析レポート	3
AFPBB News/AFP通信	18
BBC NEWS JAPAN	4
ワールド・ストリートジャーナル	12
ダウ・ジョーンズ新興市場・欧州関連ニュース	7
ダウ・ジョーンズ米国企業ニュース	17
国際自動車ニュース	
亜州リサーチ 米国上場会社情報	
Sputnik	6
JSNボストーク通信	
ニッケイ新聞(ブラジル)	20
イスパニカ中南米情報	1
日豪プレス	14
ラテンアメリカレポート	1
マージェント産業レポート	
ジェトロ(国・地域別情報)・FIL(国)調査レポート	
<中国・香港・台湾>	52
人民網	
新華社ニュース	
CGTN Japanese	
CNS (China News Service)	
ダウ・ジョーンズ中国企業ニュース	3
MIC中国経済産業ニュース(※)	
ChinaWAVE経済・産業ニュース	5
36Kr	1
香港ポスト	1
Taiwan Today	
フォーカス台湾	2
Y'sニュース台湾	5
EMSOneニュース	1
Record China	21
国際貿易	2
東方新報	
<韓国>	25
中央日報	11
朝鮮日報	9
東亜日報	3
毎日経済新聞	
韓国経済新聞	1
聯合ニュース	1
KBS WORLD	
The Daily Korea News(※)	

<アジア各国>	18
アジアビジネス情報(時事通信)	
亜州リサーチ アジア業界レポート	
ASEAN経済通信	
日経ギャラリーアジア(※)	
アジアリーガルレポート	
アジア経済	
アジア研ワールド・トレンド(※)	2
アジア・マーケットレビュー	6
亜州リサーチ アセアン経済ニュース	
モンゴル通信	
ベトナム株・経済情報	
VIETIOベトナムニュース	2
亜州IRベトナム株ニュース(※)	
VERACベトナム上場企業概要	
VERACベトナム上場企業レポート	
タイランド通信	
日刊タイビジネス	
週刊タイ経済	2
ミャンマーエクスプレス(※)	
ヤンゴンプレス(※)	
フリバン経済金融情報	
まにら新聞	4
じまのた新聞	2
ダウ・ジョーンズインド企業ニュース	
日刊インド経済	
中東研究	

【雑誌】	1,380
<ビジネス総合>	783
日経ロステック	18
日経クロストrend	2
日経ビジネス	171
週刊東洋経済	103
東洋経済オンライン	72
週刊ダイヤモンド	115
週刊エコノミスト	128
ニューズウィーク日本版	7
ニューズウィーク日本版オフィシャルサイト	9
プレジデント	12
プレジデントオンライン	29
フォーブス ジャパン	1
WEDGE	4
広島経済レポート	
ふくおか経済	1
財界九州	4
日経トットリーダー	25
TKC戦略経営者	10
企業家倶楽部	6
JMAマネジメント	2
月刊グローバル経営	3
ビジネスリサーチ(※)	
DIAMOND(ゴールド・ビジネス・レビュー)	15
一橋ビジネスレビュー	2
経営エンサー	
日経企業活動情報	
日経企業リスクウォッチ	
ケッパル スタートアップ活動情報	
日経ベンチャー活動情報(※)	
レコムM&A情報	1
M&A専門誌マール	
東洋経済Think!(※)	1
日経ローカル	12

Agrio(時事通信)	
官公庁情報(時事通信)	1
専門誌情報(時事通信)	11
ジユリスト	
Westlaw Japan新判理解説	
LEXISNEXIS日本版(リーガル・ニュース)	2
時の法令	1
IPジャーナル	1
ビジネス・レーパー・トレンド	9
会計・監査ジャーナル	
トーマツ会計情報	
税経通信	1
月刊経理ウーマン	1
安全スタッフ	2
フィナンソロビオ	
Lexis判例速報(※)	
日経ビズテック(※)	1
日経アドバンテージ(※)	
<金融・マネー>	96
週刊金融財政事情	16
近代セールス	5
バンクビジネス	
Financial Adviser	2
東洋経済金融ビジネス(※)	4
バロンズ拾い読み(※)	2
ファンド情報	6
R&I年金情報	
J-Pulse国際金融レポート	1
IGMI(インフォマ)金融情報	2
G20マーケット・インサイト(※)	1
日経マネー	1
ダイヤモンドZAi	
QUICK IPOレポート	
日経会社情報プレミアム	
東洋経済会社四季報	1
東洋経済会社四季報・未上場会社版	
東洋経済会社四季報・全70年	
東洋経済会社四季報オンライン	22
クォーターリー 日経商品情報(※)	
オール投資(※)	5
週刊エコノミスト増刊(エコノミストマネー)(※)	4
日経公社債情報(※)	18
月刊レーティング情報(※)	
<一般雑誌>	248
AERA	98
週刊朝日	80
サンデー毎日	60
日経ビジネスアソシエ(※)	2
日経おとなのOFF(※)	1
プレジデントファミリー	1
日経WOMAN	2
日経ヘルス	
日経ヘルスブルミエ(※)	
日本の論点(※)	4
日経EW(※)	
日経Kids+(※)	
<IT・ネット・PC>	78
日経コンピュータ	21
日経情報ストラテジー(※)	3
日経BPGバリエーションテクノロジー	

(表 1-2)

日経SYSTEMS(※)	6	<トレンド>	8	<WEBメディア>	100
日経ソフトウェア		日経消費インサイト(※)		ハブポスト 日本版	7
日経Linux	1	日経デザイン		CNET Japan	16
日経パソコン	6	日経トレンドイ	8	ZDNet Japan	2
Mac Fan	2			WIRED.jp	4
日経PC21	2	<環境・科学>	27	Itmedia	31
日経PCピギナーズ(※)		日経ESG	4	インプレスニュース	11
日経WinPC(※)		エネルギーフォーラム	8	インターネットコム	4
日経デジタルマーケティング(※)	1	エネルギーと環境		マイナビニュース	7
日経ビッグデータ(※)		日経サイエンス	5	MdN Design Interactive	
日経コミュニケーション(※)	13	日経バイオテク	6	翔泳社ニュース	3
日経NETWORK	1	日経ナノビジネス(※)		iidニュース	8
日経ニューメディア	10	日経バイオビジネス(※)	4	Media Innovation	
Web Designing		日経テクノフロンティア(※)		business network.jp	
+DESIGNING		日経ハイテック情報(※)		BCN Bizline	
月刊仕事とパソコン(※)		日経セレクトプロダクツ(※)		EJ Daily News(※)	
日経ソリューションビジネス(※)	5	日経超電導(※)		webCG	1
日経ITプロフェッショナル(※)	2			NIKKEI NETアーカイブ(※)	6
日経Windowsプロ(※)		<医療・健康>	41		
日経インターネットソリューション(※)		日経メディカル(※)	7	【公開情報・企業IR情報】	10
日経IT21(※)		日経メディカル オンライン	20	<企業IR情報>	10
日経バイト(※)		日経ヘルスケア	7	プレスリリース	8
日経MAC(※)		JAPIC医薬品情報データベース		ディスクロージャー	2
日経ネットビジネス(※)	2	CB医療介護ニュース	1	SCRIPTS Asia 投資家イベント詳細	
日経インターネットシステム(※)	1	社会保険旬報			
日経ウオッチャーIBM版(※)	2	日経ドラッグインフォメーション	5	<公開情報>	0
		クアネット 旬誌 ジャーナル 四天王		R&G格付ニュースリリース	
<電子・機械>	45	QLifePro医療ニュース	1	データウェア入札情報	
日経エレクトロニクス	29	薬事ニュース海外製薬・バイオ企業短報		データウェア落札情報	
Electronic Journal(※)	1	ジェネリック研究		NJSJ国・自治体の入札分析レポート(※)	
日経ものづくり	7	日経シニアビジネス(※)			
日経Automotive	3			<有価証券報告書等>	0
日経マイクログデバイス(※)		<スポーツ>	4	有価証券報告書	
日経デジタル・エンジニアリング(※)		Number(※)	4	四半期報告書	
日経エアロスペース(※)	5	月刊ジャイアンツ(※)		半期報告書	
		報知高校野球(※)		有価証券届出書	
<建築・土木・不動産>	23			内部統制報告書	
日経アーキテクチュア	7	【ニュース】	506	臨時報告書	
日経コンストラクション	9	<速報ニュース>	260	大量保有報告書	
日経ホームビルダー(※)	5	日経速報ニュース		発行登録書	
ハウジング・トリビューン		日経速報ニュースアーカイブ	221	発行登録追補書類	
月刊不動産流通		日経WHO'S WHO 人事異動情報		自己株券買付状況報告書	
不動産鑑定	1	決算サマリー		確認書	
季刊 不動産研究	1	朝日新聞速報ニュース		親会社等状況報告書	
		毎日新聞速報ニュース		公開買付届出書	
<流通・サービス・食品>	27	読売新聞速報ニュース		公開買付撤回届出書	
月刊食品工場長		産経新聞速報ニュース		公開買付報告書	
ダイヤモンド・チェーンストア	5	QUICKクイティコメント	4	意見表明報告書	
ダイヤモンド・チェーンストアオンライン		サーチナニュース	8	対質問回答報告書	
月刊国際商業	3	ダウ・ジョーンズ債券・為替情報	12	有価証券報告書等(1998-2005)	
月刊激流	6	DZH日本株・為替ニュース	15		
商業界	4			<信用情報>	0
週刊経業・C&T		<テレビ・放送>	146	信用情報	
日経レストラン(※)	1	テレビ東京 経済ニュース		東京商工リサーチ信用情報	
月刊食堂	1	日本テレビニュース	21	帝国データバンク信用情報	
カフェ・スイーツ		エムデータTVウォッチ	125	東京経済信用情報	
月刊ホテル旅館	7	テレビ番組・報道情報			
日経食品マーケット(※)					

(表 1-3)

【調査・統計・マーケティング】	14	<年鑑>	0
<統計情報>	1	産業新聞鉄鋼・非鉄金属企業ファイル	
日経NEEDS統計データ		日経NEEDS都市財政データ	
東洋経済統計月報(※)	1	東洋経済都市データバック	
		東洋経済CSR企業情報	
<マーケティング情報>	0	東洋経済就職四季報	
アスタミューゼ有望成長領域レポート		自動車年鑑	
日経POS情報 市場TOP企業レポート		鉄鋼年鑑	
日経POS情報マーケットレポート		週刊社業年鑑	
左野経済研究所マーケットシェア事典		電子ジャーナルデータブック(※)	
矢野経済研究所これからの伸びる100アイテム		情報化白書	
富士経済グループ マーケットシェアデータ		静岡新聞 静岡県経済白書	
マイボイスコム消費者調査レポート		九州データ・ブック	
BCNデジタル家電・PCランキング		元気なモノ作り中小企業300社(※)	
日経POS情報・売れ筋商品ランキング			
日経IPデータポート(※)			
季刊マーケティングジャーナル(※)			
マーケティングリサーチヤー(※)			
<研究・調査・レポート>	13		
日経業界分析レポート			
日経NEEDS業界解説レポート			
QUICK企業価値研究所業界レポート			
QUICK月次調査	1		
QUICK短期経済観測調査			
QUICKプレミアムランキング(※)			
QUICK GDPトラッカーレポート			
NTTデータ経営研究所 情報未来			
NTT技術ジャーナル			
三豊IPリサーチ&コンサルティングレポート			
みずほリサーチ&テクノロジーズ調査レポート	2		
野村総合研究所 調査研究レポート	1		
証券アナリストジャーナル			
月刊資本市場			
日本経済研究センターレポート	1		
国立国会図書館立法調査資料	2		
リム総研エネルギーレポート	2		
三菱クマカリサーチレポート(※)			
VALUENEX技術トレンドレポート			
都市問題	4		
MM総研ITレポート			
繊維トレンド			
日経NEEDSで読み解く(※)			
【書籍・年鑑】	0		
<書籍>	0		
日経業界地図			
東洋経済会社四季報業界地図			
日経シェア調査			
日経大予測			
ひろしま業界地図			
世界業界マップ			
台湾業界地図(※)			
YKS特許力情報			
ダイヤモンドMiniBook			

(表 1-4)

5. 「ことわざ」について

5-1. 検索の際の留意点

ことわざをデータベースやコーパスで検索する時の主な留意点として、およそ以下の点が挙げられる。6つのコーパスを使用した平井（2020）の4つ留意点を本稿でも修正・援用し、さらに4点（5～8）を追加する。

1. 表記や文字の違い（送り仮名の違いも含む）

例：「郷に入っては、郷に従え」→入りては／入れば／入らば／入ったら

例：「身から出たさび」→サビ／錆

例：「嘘から出た実」→誠 例：「口は災いの門」→禍

2. 前件（または後件）のみ使用している場合

例：安物買い（の銭失い）はダメだよ。 例：旅は道連れ（世は情け）だから！

例：喉元過ぎれば（熱さを忘れる）って言うでしょ？

3. 命令形を変えている場合（「慣れよ→慣れろ」も含む）

例：果報は寝て待とう。 例：長いものには巻かれたほうがいい。

例：習うより慣れよう。

4. 難読漢字が仮名（平仮名／片仮名）で記述されている場合（その混合も）

例：「窮鼠猫を囓む」→きゅうそ猫をかむ。例：「瓢箪から駒」→ヒョウタンからコマ。

5. 助詞を追加したり、語尾を活用している場合

例：良薬は口に苦いよ。／良薬は口に苦くて。／やはり良薬は口に苦かったよ。

6. 新漢字と旧漢字

例：灯台下暗し／燈台下暗し

7. 誤用の一般化

例：「口は災いの門」→口は災いの元

8. 漢数字とアラビア数字

例：「桃栗三年柿八年」→桃栗3年柿8年

これらの留意点を基に、検索の際には、例えば、「郷に入っては郷に従え or 郷に入りては or 郷に入れば or 郷に入らば or 郷に入ったら」(表2-1 日経テレコン 18位)のように、検索式(コマンド)の演算子の「OR」を使用して、できるだけ多くヒットするようにした。以下に検索結果の表を提示する。(表2-1,表2-2)

＜ことわざ＞	日経 テレコン 順位	日経 テレコン hit数	少納言 順位	少納言 hit数
寝耳に水	1	22,427	1	51
二足のわらじを履く or 二足のわらじ or 二足の草鞋	2	18,168	6	30
継続は力なり or 継続は力	3	15,790	3	35
縁の下の力持ち	4	15,789	11	24
百聞は一見にしかず or 百聞は	5	7,363	4	34
背に腹はかえられぬ or 背に腹は	6	7,326	2	42
七転び八起 or 七転び八起き or 七転び	7	6,623	38	13
木を見て森を見ず or 木を見て or 木を見て森を or 木を見て森を見	8	5,404	55	9
犬猿の仲 or 犬猿の	9	5,383	9	28
井の中の蛙 or 井の中の	10	4,918	15	21
急がば回れ	11	4,885	27	18
笑う門には福来る or 笑う門に福来る or 笑う門に	12	4,783	72	5
鬼に金棒	13	4,335	12	21
橋を叩いて渡る or 石橋をたたいて or 石橋を叩いて or 石橋を叩	14	4,175	85	2
油断大敵（油断 122059）	15	3,873	7	30
転ばぬ先のつえ or 転ばぬ先の杖	16	3,737	10	27
怪我の功名 or けがの功名	17	3,683	13	21
郷に入っては郷に従え or 郷に入りては or 郷に入れば or 郷に入らば or 郷に入ったら	18	3,440	5	33
出る杭は打たれる or 出る杭	19	3,329	19	20
寄らば大樹の陰 or 寄らば大樹 or 寄らば	20	3,162	16	20
雨降って地固まる or 雨降って	21	3,028	58	8
石の上にも三年 or 石の上にも3年 or 石の上にも	22	2,969	52	9
住めば都	23	2,714	44	12
言うは易く行は難し or 言うは易く or 言うはやすく	24	2,685	33	14
終わり良ければ総てよし or 終わりよければすべてよし or 終わり良ければ or 終 わりよければ or 終わりよければ全てよし	25	2,669	53	9
猫の手も借りたい or 猫の手もかりたい or 猫の手も	26	2,667	36	14
泣きっ面に蜂 or 泣きっ面にハチ or 泣きっ面に	27	2,413	47	10
病は気から	28	2,377	26	18
立て板に水 or 立板に水 or 立て板に or 立板に	29	2,305	14	21
塵も積もれば山となる or 塵も積もれば or ちりもつもれば	30	2,286	21	19
二兎を追う者は一兎をも得ず or 二兎を追う	31	2,218	25	18
花より団子	32	2,015	39	13
身から出た錆 or 身から出たさび or 身から出たサビ	33	1,946	8	29
瓢箪から駒 or ひょうたんからコマ or 瓢箪から or ひょうたんから	34	1,911	56	9
餅は餅屋 or もちはもち屋	35	1,857	42	13
光陰矢のごとし or 光陰矢の如し or 矢のごとし or 矢の如し	36	1,833	59	8
目の上のたん瘤 or 目の上のたんこぶ or 目の上のタンコブ or 目の上のタンこぶ or 目の上のたん瘤	37	1,637	23	19
棚からぼた餅 or 棚から牡丹餅 or 棚からぼたもち	38	1,578	31	15
論より証拠	39	1,486	40	13
習うより慣れろ or 習うより慣れ	40	1,443	37	13
灯台下暗し or 燈台下暗し	41	1,400	29	17
過ぎたるは及ばざるが如し or 過ぎたるは及ばざるがごとし or 過ぎたるは及ばざる or 過ぎたるは 千里の道も一歩から or 千里の道も	42	1,317	20	19
犬も歩けば棒にあたる or 犬も歩けば棒に当たる or 犬も歩けば	43	1,298	67	6
喉元過ぎれば熱さ忘れる or 喉元過ぎれば or 喉元すぎれば	44	1,242	62	8
好きこそもの上手なれ or 好きこそものの	45	1,212	30	17
暖簾に腕押し or のれんに腕押し or のれんに腕おし	46	1,190	22	19
果報は寝て待て or 果報は	47	1,141	43	13
可愛い子には旅をさせよ or 可愛い子には旅を	48	1,136	34	14
案ずるより産むが易し or 案ずるより産むがやすし or 案じるより産むが易し or 案 じるより産むがやすし	49	1,053	66	7
	50	1,024	51	9

(表 2-1)

＜ことわざ＞	日経 テレコ 順位	日経 テレコ hit数	少納言 順位	少納言 hit数
長い物には巻かれろ or 長いものには巻かれろ	51	888	50	10
覆水盆に返らず or 覆水盆に or 覆水、盆に	52	885	61	8
良薬口に苦し or 良薬は口に苦し or 良薬口に苦 or 良薬は口に苦	53	862	71	5
仏の顔も3度 or 仏の顔も3度 or 仏の顔も3度まで or 仏の顔も	54	840	60	8
旅は道連れ世は情け or 旅は道連れ or 旅は道づれ	55	837	57	9
安物買いの銭失い or 安物買いの or 安もの買いの	56	815	48	10
類は友を呼ぶ or 類は友を呼ぶ or 類は友を	57	799	17	20
親しき仲にも礼儀あり or 親しき仲にも	58	750	24	18
武士は喰わねど高楊枝 or 武士は食わねど高楊枝 or 武士は喰わねど or 武士は食わねど	59	725	49	10
老いては子にしがえ or 老いては子に従え or 老いては子に	60	723	73	5
蛙の子は蛙 or カエルの子はカエル or 蛙の子は or カエルの子は	61	686	46	10
知らぬが仏	62	673	41	13
負けるが勝ち	63	661	79	4
猫に小判	64	632	35	14
馬の耳に念仏	65	627	75	4
芸は身を助ける or 芸は身を助く or 芸は身を助	66	620	69	6
医者の不養生	67	609	90	1
腐っても鯛 or 腐ってもタイ or くさっても鯛 or くさってもタイ	68	583	68	6
虹蜂取らず or あぶはち取らず or アブハチ取らず	69	521	81	4
無理が通れば道理引つ込む or 無理が通れば	70	509	78	4
苦しい時の神頼み or 苦しいときの神頼み	71	500	83	3
爪に火を点す or 爪に火を灯す or 爪に火を	72	494	32	15
頭かくして尻かくさず or 頭隠して尻隠さず or 頭かくして or 頭隠して	73	465	80	4
桃栗三年柿八年 or 桃栗3年柿8年	74	461	74	5
骨折り損のくたびれ儲け or 骨折り損の	75	429	18	20
衆あれば苦あり	76	414	89	2
能ある鷹は爪を隠す or 能ある鷹は or 能あるタカ	77	410	65	7
底を貸して母屋を取られる or ひさしを貸して母屋を取られる or 底を貸して or ひさしを貸して	78	399	92	1
猿も木から落ちる or 猿も木から or サルも木から	79	392	94	1
貧乏暇なし or 貧乏ひまなし or 貧乏暇無し	80	391	28	18
憎まれっ子世にはばかる or 憎まれっ子	81	380	77	4
口は災いの門 or 口は禍の元 or 口は災いの元 or 口は禍の門	82	363	70	5
聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥 or 聞くは一時の恥	83	326	95	1
糠に釘 or ぬかに釘 or ぬかにくぎ	84	316	64	7
鬼の目にも涙 or 鬼の目にも or オニの目にも	85	314	96	0
地獄の沙汰も金次第 or 地獄の沙汰も	86	299	45	12
枯れ木も山の賑わい or 枯れ木も山のにぎわい or 枯れ木も山の	87	285	86	2
馬子にも衣装 or まごにも衣装	88	285	88	2
蝦で鯛を釣る or 海老で鯛を釣る or エビでタイを釣る	89	260	91	1
溺れる者は藁をも掴む or おぼれる者はわらをもつかむ or 溺れる者は or おぼれる者は	90	246	82	3
豆腐に鏝 or 豆腐にかすがい or 糠に釘 or ぬかに釘	91	206	93	1
蛙の面に水 or 蛙の面に小便 or 蛙の面に or 蛙のつらに or カエルの面に or カエルのつらに	92	199	100	0
臭い物には蓋をする or 臭いものには蓋をする or 臭い物には蓋をを or 臭い物にはふたを or 臭いものにはふたを	93	179	63	8
二階から目薬 or 2階から目薬	94	171	76	4
弘法も筆の誤り or 弘法も筆の	95	150	87	2
嘘からでた誠 or 嘘から出た実 or うそから出た誠 or うそから出た実 or ウソから出た誠 or ウソから出た実	96	34	84	3
年寄りの冷水	97	29	99	0
下手の長談義	98	13	98	0
始め半分	99	12	97	0
窮鼠猫を噛む or きゅうそ猫をかむ or 窮鼠猫を噛 or きゅうそ猫をか	100	7	54	9

(表 2-2)

5-2. 検索結果

100 個のことわざにおいて、均衡コーパス（以下、均衡）と同様に、日経テレコン（以下、日経）でも「寝耳に水」がヒット数 1 位、「継続は力なり」が 3 位となった。しかし、かなり順位の違うものもあり、「七転び八起き」は均衡で 38 位だったが、日経では 7 位、「木を見て森を見ず」は均衡で 55 位、日経では 8 位、「石橋を叩いて渡る」は均衡 85 位、日経 14 位となった。他にも「雨降って地固まる」や「石の上にも三年」といったビジネスやスピーチ、訓話などによく使われそうなものが上位を占めている。一方、「郷に入っては郷に従え」のように均衡では 5 位と高かったものが、日経では 18 位、「身から出た錆」（均衡 8 位、日経 33 位）、「類は友を呼ぶ」（均衡 17 位、日経 57 位）、「骨折り損のくたびれ儲け」（均衡 18 位、日経 75 位）と約 4 倍の差で低い順位となっているものもある。順位が低くなったことわざは、日常生活や人間関係に関するものが多い。

5-3. 事例と考察

日経 1 位の「寝耳に水」は、その字面だけ見ても意味は類推しにくい。初めて見る学習者にとっては、「気持ちがいい」、「気持ち悪い」、「いたずら」、「災害」、「起床の合図」、「ビーチやプールでの思い出」など様々な意味が想像できるだろう。週刊東洋経済（2021）の記事のタイトルは以下の通りである。

「脱エンジン」で売り上げ急減 始まった部品会社の生存競争 ホンダの部品工場閉鎖は系列会社にとって寝耳に水。変化に備える企業はわずかだ。」（下線強調筆者追加）

このタイトル文においては、「寝耳に水」が何かネガティブな意味だということはわかるが、「災難」や「始まるの合図」と考える学習者がいてもおかしくない。本文を読めば、「そんな話はまったく聞いていない。」と突然の宣告に驚きを隠せない。」という一文があり、恐らくそこでやっと意味がわかることになる。

一方、日経ビジネス（2013 年 3 月 25 日号 p.14）「時事深層—「JAL アマゾン連合」誕生へ」の本文では、以下のように「寝耳に水」が現れている。（下線部）

「(前略) ところが昨年 6 月、ヤフーは突如としてカルチュア・コンビニエンス・クラブ(CCC)の「Tポイント」との提携を発表。今春をめどに、TポイントがYahoo!ポイントを吸収する形で、一本化されることになった。

これに驚いたのが JAL だ。ヤフーは CCC との交渉を優先させるあまり、JAL を含めた提携先へ事前の根回しは一切していなかった。T ポイントは既に全日本空輸 (ANA) のマイレージとの相互交換が可能。つまり JAL と ANA のマイルが、T ポイントを通じて交換できることになってしまう。これを防ぐための提携終了、というのが表向きの理由だ。

ただ今回の破談には、もう 1 つ別の理由があった。T ポイント一本化は「寝耳に水」の JAL だったが、その後もヤフーとの提携は引き続き維持したいと考えていた。ヤフーをはじめとする JMB モールに参加する企業は、基本的に JAL マイルを「購入」して、利用者に還元する仕組みを取っている。いわば“お得意様”だったヤフーを、JAL が率先して切る必要はなかったはずだ。(後略) (下線強調筆者追加)

この場合、それ以前に「突如として」や「これに驚いたのが」、「根回しは一切していなかった」などの表現があることや文脈から「突然聞いた話や状況」という意味は類推可能と思われる。(「根回し」も慣用語表現であるが) ただ、すべての文章でこのように出現するわけではなく、「寝耳に水」の意味を知っていることは、様々な機会に役立つことと言えるであろう。

6. 「故事成語」について

6-1. 検索の際の留意点

一般に「我が国」や「我が家」などのいわゆる「ガノ変換」が含まれる「(人間万事) 塞翁が馬」などの故事成語については、それに追加して固有名詞である「塞翁」も「OR」を使用して検索に含めれば、「塞翁の馬のように」と故事成語を説明的に述べた表現でも検索結果に含めることができる。「虎穴に入らざれば虎子を得ず」のような長いものは、これも「虎穴」を追加すれば、「虎穴に入らないと手に入らないよ」といった故事成語の知識を前提とした記述も範囲に含めることができる。(あるいは、意図的に含めないこともできる)「虎視眈々」のような繰り返しの場合は、「虎視眈眈」の可能性も考慮する。なお、「々」は「繰り返し符号」「重ね字」「ノマ字点」などと呼ばれ、入力時には「おなじ」「どう」「のま」の変換で表示させることができる。

検索結果の (表 3) を提示する。

< 故事成語 >	日経 テレコン 順位	日経 テレコン hit数	少納言 順位	少納言 hit数
矛盾	1	265,493	1	2,221
完璧	2	187,865	2	1,850
助長	3	114,461	4	450
切磋琢磨	4	81,909	8	77
登竜門	5	49,803	14	47
疑心暗鬼	6	33,419	3	1,125
背水の陣	7	28,977	16	40
杞憂	8	18,868	7	88
虎視眈々 or 虎視眈眈	9	16,557	9	62
破天荒	10	15,779	12	53
温故知新	11	15,418	17	38
一触即発	12	13,825	13	49
推敲	13	12,811	6	105
杜撰	14	8,729	11	53
他山の石	15	7,861	23	22
四面楚歌	16	6,931	15	41
青天の霹靂 or 晴天の霹靂	17	6,812	10	54
玉石混交	18	6,657	30	17
呉越同舟	19	5,935	37	9
漁夫の利	20	5,848	21	24
朝令暮改	21	5,501	26	19
焦眉の急 or 焦眉の	22	4,639	18	37
我田引水	23	4,041	36	11
晴耕雨読	24	3,790	38	8
猪突猛進	25	3,591	19	34
蛇足	26	3,526	5	122
捲土重来	27	2,904	27	18
大器晩成	28	2,604	24	21
生き馬の目 or 生き馬の目を抜く	29	2,482	32	14
臥薪嘗胆	30	2,290	31	16
画竜点睛 or 画竜点睛 or 画竜点睛を欠く or 画竜点睛を欠く	31	2,156	29	17
馬耳東風	32	2,130	33	14
五十歩百歩	33	1,661	20	29
塞翁が馬 or 人間万事塞翁が馬 or 人間万事、塞翁が馬	34	1,616	28	18
白眼視	35	1,611	22	24
隔靴搔痒	36	1,305	44	2
羊頭狗肉	37	1,294	39	7
竜頭蛇尾 or 龍頭蛇尾	38	1,181	45	1
虎穴に入らずんば虎子を得ず or 虎穴に入らざれば虎子を得ず or 虎穴に入ら	39	1,168	34	13
李下に冠を正さず or 李下に冠を	40	785	43	3
巧言令色	41	683	35	11
朝三暮四	42	544	47	0
刎頸の友 or 刎頸の交わり or ふんけいの交わり or 刎頸	43	497	42	4
鶏口牛後 or 鶏口となるも牛後となるなかれ or 鶏口と成るも牛後と成るなかれ	44	484	46	0
孟母三遷 or 孟母三遷の教え	45	374	41	5
朱に交われれば赤くなる or 朱に交われれば赤くなる or 朱に交われれば	46	269	40	7
立錫の余地なし or 立錫の余地	47	262	25	19

(表3)

6-2. 検索結果

故事成語に関しては、均衡コーパスでの検索結果と比較的よく似た傾向を示し、日経テレコンでも2字の故事成語は上位に位置した。なお、「蛇足」は均衡では5位だったが、日経では26位になった。この理由については、不明である。「登竜門」(日経5位)、「排水の陣」(日経7位)、「温故知新」(日経11位)、「他山の石」(日経15位)、「我田引水」(日経23位)、「晴耕雨読」(日経24位)など、均衡コーパスより上位になったものは、報道や政治、著名人の座右の銘などに使用される傾向があることが影響していると推測する。

6-3. 事例と考察

「矛盾」と「完璧」は日経でも1位と2位になっており、完全に日本語として意味・用法ともに定着していることがわかる。ただ、日経3位の「助長」は

孟子の『公孫丑』公孫丑(上)に出現する故事で、ある男が苗を伸ばしてやろうと引っ張って助けてやったが、苗は枯れてしまったことから、悪い結果をもたらすことが基本的な意味である。以下の3つの記事の見出しはその実例である。

「外国人、来日足止め37万人、企業の手不足助長、「閉じた日本」際立つ。」
(2021/10/22 日本経済新聞 朝刊 p.1) (下線強調筆者追加)

「さまよう異次元緩和黒田体制最長の8年半(中) 円安・株高誘導の功罪、「安いニッポン」助長も。」(2021/09/30 日本経済新聞 朝刊 p.9) (下線強調筆者追加)

「ネール首相、再び米に書簡 中共の国連加入、侵略助長せず」
(1950/07/21 日本経済新聞 朝刊 p.1) (下線強調筆者追加)

しかし、現代でも、また戦後初期においても、肯定的な意味で使用されている例も多々ある。

「NATO最大限の団結助長 ジョー大統領表明」(1964/12/22 日本経済新

聞 朝刊 p.2)「三、欧州の最大限の団結を助長するのが米国の政策であり、米政府当局者は、NATO の発展について米国が行なっていかなる提案も、この目的に反するものと解してはならない。」(下線強調筆者追加)

このように日本語の中でも正反対の意味を持ったり、日中で意味が異なる「呉越同舟」「四面楚歌」のような故事成語には気を付ける必要がある。(平井 2020)

また、「人間が万事、塞翁が馬」は、前漢の武帝の時代の「淮南子」という書からであり、淮南王劉安が思想家を集めて編纂した。元の表記は「塞翁馬」であって、「人間万事」も「が」も日本語において付加されたものだ。

ことわざと比較しても、故事成語のヒット数は非常に多く、日本の新聞や専門雑誌、報道などで幅広く頻繁に使用されていることがわかる。

7. 「慣用句・慣用表現」について

7-1. 検索の際の留意点

日経で1位になった「拍車がかかる」など、慣用句・慣用表現には用言として活用があるものも多い。検索では「拍車がかかる or 拍車が掛かる or 拍車が」のように、漢字表記と前件だけのものも使用した。もちろん、活用の語幹部分「かか」「掛か」を追加してもよいが、検索結果は同じであったため、割愛した。

7-2. 検索結果

「拍車がかかる」が日経で1位になったことは、株式や為替や貿易収支、経営動向、商品の売れ行きなど、経済・経営に関する記事で頻繁に使用されることから予想できた。「しのぎを削る」(日経2位、均衡10位)、「肝に銘じる」(日経3位、均衡35位)は、均衡では低かったものが、日経で高い順位になっているもので、国家や企業の競争、ビジネスでの教訓などの文脈で使用されることが多いと思われる。一方で、「案の定」(日経8位、均衡1位)、「目から鱗」(日経9位、均衡3位)、「釘付け」(日経12位、均衡2位)、「らちがあかない」(日経27位、均衡5位)など、日常生活や会話で使用されるような言葉は全般的に低い順位となっている。検索結果の(表4)を提示する。

<慣用句・表現>	日経 テレコン 順位	日経 テレコン hit数	少納言 順位	少納言 hit数
拍車が効かる or 拍車が掛かる or 拍車が	1	121,168	6	86
しのぎを削る or 鎗を削る or しんぎを or 鎗を	2	98,816	10	60
肝に銘じる or 肝に命じる or 肝に銘じ or 肝に命じ	3	61,708	35	6
白羽の矢が立つ or 白羽の矢 or 白羽の	4	47,179	7	83
満を持す or 満を持して or 満を持し or 満を持	5	43,201	8	79
氷山の一角	6	28,637	11	60
槍玉に挙げる or やり玉に挙げる or 槍玉に or やり玉に	7	25,287	12	54
案の定	8	24,346	1	464
目から鱗 or 目から鱗が落ちる or 目からウロコ or 目からうろこ	9	21,471	3	116
枚挙に暇がない or 枚挙にいとまがない or 枚挙に	10	18,026	4	108
焼け石に水 or 焼け石に	11	12,045	22	22
釘付け or 釘づけ	12	11,418	2	145
雲泥の差 or 雲泥の	13	10,187	9	67
渡りに船	14	9,778	25	20
やぶさかでない or やぶさかで	15	8,830	13	47
顰蹙を買う or ひんしゆくを買う or ひんしゆくをかう or ヒンシユクをかう or 顰蹙を or ひんしゆくを or ヒンシユクを	16	7,286	27	18
至れり尽くせり	17	6,862	15	40
薄水を踏む or 薄水をふむ or 薄水を踏 or 薄水をふ	18	6,462	26	18
三日坊主	19	5,418	18	27
水を得た魚	20	3,469	20	25
猫の手も借りたい or ねこの手も借り or ネコの手も借り or 猫の手も	21	3,053	30	14
すずめの涙 or スズメの涙 or 雀の涙	22	2,692	23	21
故郷に錦を飾る or 錦を飾る or 錦を飾	23	2,250	29	16
一日千秋	24	2,153	28	17
朝飯前	25	2,119	16	37
象牙の塔	26	2,030	19	25
らちがあかない or 埒が明かない or 埒があかない	27	1,806	5	89
一難去ってまた一難 or 一難去って	28	1,768	32	13
溜飲を下げる or 溜飲が下がる or 溜飲 or りゅう飲	29	1,697	14	42
嘘八百 or うそ八百 or ウソ八百	30	1,667	24	21
売り言葉に買い言葉 or 売り言葉に	31	1,529	17	30
イロハのイ	32	1,239	37	3
月とすっぽん or 月とスッポン	33	1,002	33	12
馬が合う or 馬が合わない or 馬が合	34	742	21	23
嘘つきは泥棒の始まり or 泥棒の始まり	35	494	36	5
青菜に塩	36	268	34	8
虫の居所が悪い or 虫のいどころが or ムシの居所が or 虫のいどころが	37	205	31	14
精神一到何事か成らざらん or 精神いっとう、なにごと成らざらん	38	114	38	3

(表4)

7-3. 事例と考察

「白羽の矢が立つ」は企業の人事で、「やぶさかでない」は政治家の発言で、「象牙の塔」は大学の不祥事などで、使用される典型的な文脈が容易に想像できるものである。「冰山の一角」や「焼け石に水」、「嘘つきは泥棒の始まり」などは、語彙がわかれば、そのままの意味で理解できる。一方、「三日坊主」、「朝飯前」、「虫の居所が悪い」などは、個別の語彙を知っていても、理解は不可能である。慣用句・慣用表現と言っても、その成り立ちや使用される文脈、言葉に独自に込められた意味などで、学習の難易度は異なってくるため、学習者に提示する際には、配慮が必要だと思われる。「満を持す」は日経で5位であるが、これも字面だけでは推測が困難な慣用表現であり、以下にその例を示す。

「「全固体電池」実用化方針にサプライズ、トヨタの電池戦略はEV時代に競争優位を保つか」2021/10/18 日刊工業新聞ニューススイッチ（政年佐貴恵）

「欧米の自動車メーカーを中心に世界中で車載電池への投資が過熱する中、トヨタ自動車が満を持して自社戦略を公表した。」（下線強調筆者追加）

この文例では、欧米のメーカーが戦略を明確にして車載電池への激しい投資競争をしている中、それまでトヨタがレシプロエンジンやハイブリッド（電池はニッケル水素とリチウムイオン）、水素燃料電池にこだわる中、やっと全個体電池電池に集中することを発表したわけだが、このような背景を知らなければ、「満を持して」の意味が腑に落ちることは難しい。背景知識と共に学習することが言葉の学習には非常に重要である。

8. 「四字・三字熟語」について

8-1. 検索の際の留意点

「一生懸命」は名詞であるとともに、「一生懸命な」、「一生懸命さ」という形容詞的な用法や「一生懸命に働く」、「一生懸命働く」という副詞としての性格も有する。4文字の内、2文字だけの「懸命な／に／さ」だけでも「一生懸命」

<四字/三字熟語>	日経テレコン	日経テレコン	少納言	少納言
	順位	hit数	順位	hit数
一生懸命	1	506,357	1	2,169
冠婚葬祭	2	104,174	15	159
一進一退	3	96,580	29	96
未曾有	4	79,601	10	183
試金石	5	75,241	54	48
老若男女	6	72,565	9	183
理不尽	7	71,661	2	413
一喜一憂	8	59,783	22	122
醍醐味	9	59,424	5	217
前代未聞	10	57,769	6	204
臨機応変	11	51,633	11	173
一石二鳥	12	43,877	16	147
喜怒哀楽	13	41,769	20	134
無我夢中	14	39,093	21	126
不条理	15	37,515	8	185
本末転倒	16	35,624	25	106
順風満帆	17	32,391	50	53
半信半疑	18	30,597	12	172
一目瞭然	19	30,381	4	269
心機一転	20	29,657	47	55
一期一会	21	27,716	31	90
一朝一夕	22	27,571	28	100
取捨選択	23	22,683	27	102
日常茶飯事	24	22,283	17	147
千差万別	25	21,331	19	136
生意気	26	20,063	3	381
奇想天外	27	19,307	35	79
日進月歩	28	17,923	58	40
風光明媚	29	16,782	45	59
和洋折衷	30	15,160	44	64
紆余曲折	31	15,029	23	122
聞一弊	32	14,795	42	66
絶体絶命	33	13,827	38	68
弱肉強食	34	13,673	30	94
意气消沈	35	13,407	39	67
十人十色	36	12,890	46	55
一長一短	37	12,667	40	66
波瀾万丈 or 波乱万丈	38	12,539	37	70
滿身卸瘡	39	12,125	66	24
一攫千金 or 一獲千金	40	10,911	55	45
自暴自棄	41	10,862	33	83
優柔不断	42	10,657	14	161
百花繚乱	43	10,043	64	28
一心同体	44	9,586	49	53
無理難題	45	8,332	43	65
有頂天	46	8,249	18	141
荣枯盛衰	47	8,199	60	35
森羅万象	48	8,018	34	83
暗中摸索	49	7,659	59	35
傍若無人	50	7,476	26	102
用意周到	51	7,408	48	55
自業自得	52	7,398	13	161
起承転結	53	7,349	41	66
危機一髪	54	5,915	52	49
一網打尽	55	5,783	56	43
單刀直入	56	5,728	24	108
支離滅裂	57	5,708	32	90
以心伝心	58	5,624	51	49
疲勞困憊	59	5,349	36	73
几帳面	60	5,230	7	201
虚心坦懐	61	5,064	68	19
五里霧中	62	3,368	67	20
八方美人	63	3,295	61	35
百家争鸣	64	2,619	69	10
因果応報	65	2,230	63	30
白昼夢	66	2,171	53	49
老婆心 (ながら)	67	2,134	65	28
品行方正	68	1,964	62	33
閑話休題	69	1,691	57	42
序破急	70	931	70	10

(表5)

同じ意味で使用できるため、「一生懸命 or 懸命」で検索したところ、999,025件というなんと約100万件のヒット数となった。しかし、ここでは「四字・三字熟語」というカテゴリーのため、「懸命」は含めず、「一生懸命」だけにした。今回対象にした他の四字・三字熟語については、一部分だけで全体と同じ意味で使用できるものはなかったため、そのままの文字数で検索した。（「無我夢中」は「夢中」だけでも可能だが上述の理由により、四字で使用）

検索結果の（表5）を提示する。

8-2. 検索結果

「一生懸命」は日経と均衡ともに1位となり、これは日本で明らかに最も使用されてきた四字熟語であると言えよう。「冠婚葬祭」が日経で2位になった理由は明確にはわからないが、恐らく社会人やビジネス・パーソンとしてのマナー特集などの記事からではなかろうか。日経3位「一進一退」は失われた30年と言われるバブル崩壊後の経済・社会の状況を示し、日経4位の「未曾有」は日航機墜落事故や阪神大震災、JR 尼崎福知山線事故、東日本大震災、大型台風や集中豪雨による被害など、大事故や大規模自然災害の記事に使われたことが考えられる。「生意気」（日経26位、均衡3位）や、「几帳面」（日経60位、均衡7位）は、人の性格を表す言葉で、これらも均衡のほうが日常生活の語彙が高くなる傾向があるためこのような結果になったのだろう。

8-3. 事例と考察

「醍醐味」（日経9位、均衡5位）とはどんな味ですかと留学生に聞かれたことが何度もある。辞書では「仏陀の最高の教え、転じて、本当の面白さ、深い味わい」とあるが、どう使えばよいか困る学生も多い。以下の例文を示せば、それが「たまらないほどの楽しみとわくわくする気持ちを合わせた味わい深いもの」ということがわかるかもしれない。データベースは、オーセンティックな文例探しに役に立ち、それらを持ってしか本当の理解は身につかないと考える。

「ロンドンやニューヨークの若者を魅了する「超ミニ住宅」の醍醐味」

(2016/11/15 ニューズウィーク日本版 pp.54-55) (下線強調筆者追加)

「山口香——柔道、団体戦にみた柔道の醍醐味 (千里眼)」

(2021/08/02 日本経済新聞 朝刊 p.26) (下線強調筆者追加)

「西武園ゆうえんち (埼玉県所沢市) ——「昭和の街」何かが起きる、ゴジラの世界も体感」(2021/06/02 日経MJ (流通新聞) p.12) (下線強調筆者追加)

「例えば商店に泥棒が現れ、警察官との追いかっけこが突然始まる。建物の2階からロープを使って泥棒が逃げたり、アクロバティックな動きで掛け合いを展開する。野菜のたたき売りでは、高値で売ろうとする店主と観客とで繰り広げるやりとりも醍醐味だ。」

9. 実際の日本語学習への応用

外国語学習において語彙や文法・句型を覚えるのは、必要なことではあるが、あくまでその言語の表面的な規則事を暗記しているにすぎない。習得した外国語を道具として、成し遂げたい、あるいは楽しみたいことがその先にあるはずだ。本稿で取り上げた言葉の数々は、古い中国の賢人の言葉から現代社会で頻繁に使用されているものまで、まさに生きた文化や物語を秘めている味わい深い言葉ばかりである。これらを日本語学習の中に取り入れ、その背景にあるもの、人間の心理、社会の成り立ちなど様々なこと引き出していければ、学習者の「その先」にあるものに役立つと考える。

今回、日経テレコンでの検索結果を均衡コーパスと並べることができ、選択した言葉が日常生活でも新聞やビジネス、専門雑誌などでも非常に使われていることを、学習者に知らしめることができれば、意味のない、役に立たない教科書の欄外の付録のようなものではないことがわかってもらえると思う。それどころか、大学受験や大学での学習、社会人になってからの必需品であることを理解してくれると期待したい。以下は、実際に教室でこれらの言葉を導入し、学習者の疑問点を解決しながら、様々な学習活動を通じて、いかに習得してい

くかを提案したい。

9-1. 「ことわざマーカ―」とコロケーション

学習者が文章の読解において、つまづいた言葉がことわざだと気づくには、それがことわざだと示す前後の形式がわかることが大切である。それはまた、ことわざを学習した後の実際の文中や会話中での使用方法でもあり、まずその知識が必要となる。以下の例のように、ことわざが鍵括弧でくくられていたり、前件を説明する機能の「という」が使われたり、一般的に多くの人が言っていると示す方法や昔からよく言われると直接的に提示したり、「古来中国では」などという決まり文句を付けるたりする。また、そのことわざを自分が実感したという経験を伝える「～とはよく言ったものだ」や、「～というとおりに」を使って、そのことわざと同じ結果になったことを示す方法などがある。これらは「ことわざマーカ―」と言われる。

例：「石の上にも三年」ということわざがあるよね。だから頑張って！

例：石の上にも何年（とか）って言うじゃないか。

例：昔からよく言われる石の上にも三年という意味は・・・。

例：ほら、石の上にも三年って、言うでしょ？

例：古来中国では「馬耳東風」と言われ、日本では「馬の耳に念仏」と言う。

例：「急がば回れ」とはよく言ったものだ。

例：塞翁が馬というとおりに、怪我也治って、前より健康になったよ。

なお、故事成語の実際の使用で、どのような品詞になるのか、どのような言葉が共起表現として使われるのかを、学習者に伝えるのは重要である。

1. Iグループの動詞やIIIグループの動詞（サ変動詞）として使えるもの

例：この報告書はもう一度推敲するほうがいいよ。

例：ライバルの会社の社員から白眼視された。

例：この業界は生き馬の目を抜くと言われるほど競争が激しい。

例：朱に交われば赤くなるので、人間関係には気を付けてほしい。

2. な形容詞（形容動詞）として使えるもの

例：こんな杜撰な作り方では、お客様に叱られるぞ。

例：彼の破天荒なやり方は、職場の和を乱しかねない。

3. 名詞として扱うもの

例：上司がけんかしている間に料理を食べて、漁夫の利を得たよ。

例：あの新入社員は大器晩成のタイプだから、もう少し待とう。

次に慣用句・慣用表現でも、内海（2017）で重要視されている共起表現、コロケーションが大切となる。適切な前件と後件が選ばれ、適切な文脈の中で使われてこそ、機能するものだからである。下線部は一緒に使うことによって、これらの慣用句・慣用表現が使用される状況を設定し、意味を補強する機能がある。

例：昨日の外為相場では、円高に拍車が掛かった。

例：新しい車載電池の開発に各社がしのぎを削っている。

例：この地域の貧困の問題は冰山の一角であって、国全体では・・・

例：この図を見れば、一目瞭然ですよ。

例：今日は猫の手も借りたいほど忙しいんだけど。

例：準備した資料の数がぎりぎりで、薄氷を踏む思いだったよ。

例：あの子は三日坊主で、ピアノもそろばんも習い始めてすぐにやめたのよ。

例：先月分のアルバイトの給料もらったんだけど、雀の涙だったよ。

例：あの温泉旅館は至れり尽くせりで、まるで竜宮城にいたみたいだったよ。

例：結婚式で歌を歌ったら別れの歌だったので、髷髻を買ったよ。

例：つい売り言葉に買い言葉で、カッとなって、けんかしてしまった。

例：老婆心ながら、申し上げますが、それはやめておいたほうが・・・

9-2. 実際の教室での学習方法について

これまで論じた知見を活かして、実際の授業でどのような学習や活動ができ

るかを提案したい。

- 案 1. 自己紹介で使える好きなことわざや慣用表現などを選んで、自己紹介する。
- 案 2. 自国のことわざを母語と日本語で説明し、発表する。
- 案 3. 日本人や日本文化の特徴を表すことわざなどをグループ討論して選ぶ。
- 案 4. 猫や犬など特定の動物にかかわることわざを調べて、発表する。
- 案 5. 自国と反対の意味のことわざなどを調べて、一覧表を作る。
- 案 6. ことわざなどを絵にして、展示する。
- 案 7. 故事成語のストーリーをグループで寸劇などで演じてみる。（現代版に変えてもよい）
- 案 8. ことわざなどでカードを作り、カードゲームにして対戦する。
（相手のカードに対して、より効果的な（強力な）カードを出せれば、勝ちとする。
判定は教師や日本語母語学生が行なう。）
- 案 9. 好きなアニメ、漫画、歌、映画などに出てくることわざなどを紹介する。
- 案 10. 中国での故事成語と韓国や日本での意味の違いを調べる。
- 案 11. 留学生にとって学校や生活の中で役に立つことわざなどを集める。
- 案 12. できるだけ多くのことわざなどを使ったエッセイや物語を書いてみる。
- 案 13. 街中でことわざや標語、四字熟語などを見つけ、写真に撮ってシェアする。
- 案 14. 後輩のために、その年のことわざを集めたオリジナル・テキストを自分たちで作る。
（各国語の翻訳付き）
- 案 15. アプリを使って、ことわざゲームを作る。（読み方、意味、例文判定など）
- 案 14. 結婚式のスピーチやお葬式のあいさつ、お正月、赤ちゃんの誕生などでは
「絶対言ってはいけない」ことわざなどを集める。
- 案 16. 物事のメタファーが文化によって違う例を、色や動物、伝統行事などから調べる。
- 案 17. 新しいことわざを作ろう！（学生がオリジナルのことわざを作り、説明して、コンテストを開催する）
- 案 18. ことわざなどを前件（上の句）と後件（下の句）に分け、百人一首のようにカルタ遊びをする。
- 案 19. 日本語母語話者の好きなことわざなどをインタビューし、グループ発表する。

9-3. 学習者の気持ちから対応を考える

平井（2020）では、5つの学習者作文コーパスでことわざなどの使用実態を

調査したが、結果は非常に使用が少ないことが判明した。そこで、学習者の作文からなぜことわざなどを使用しなかったのか理由を推測した。このような場合、フォローアップ・インタビューで直接理由を聞き取り調査するのが正確なやり方だが、コーパスの作文を書いた学習者に合うことができないため、あくまで推測で理由を列挙した。本稿ではその理由に、教員が対応策を考案することで、具体的に授業を改善できるのではないかと考えた。以下、平井（2020）の推測より引用。（→からは、今回考案したもの）

1. 日本語の諺や慣用句、慣用表現をあまり知らない／学習機会がなかった
→それらを紹介した書籍やウェブサイトを紹介する。
2. 母語と同じことわざがあることを知らなかった
→日本語のことわざがその学生の母語で翻訳された図書を紹介する。
3. 母語のことわざもあまり知らない
→ウェブサイトで母語のことわざを調べさせ、教員や他の学生と共有する。
4. 母語でもあまり諺を使って文章を書かなかった
→その学生の母語のことわざ集で、ことわざがどのように使われているか研究してもらう。
5. 日本語の諺を知っているが、どうやって文に入れればいいのかわからない
→日本のことわざを使って、どんどん短文を作ってもらい、添削やアドバイスを
する。
6. 括弧に入れるなど表記の仕方がわからなかった
→「ことわざマーカー」を教える。（句読点や括弧、各種記号の基本的な使い方なども必要に応じて教える）
7. 同じ言葉でも母語と日本語で意味が違うかもしれない危険性を考慮して使わなかった
→その考慮を誉めた上で、恐れず使えるように、意味の比較を進め、オリジナル・ノートを作成させる。他の学生とシェアする。
8. その諺の漢字が思い出せず書けなかった（コーパスは手書きの作文であることが多い）
→平仮名でもよいことを伝え、書く練習も行う。毛筆で大きな紙に書くのも効果的。

9. 辞書が使えなかったので、あきらめた
→ウェブサイトを使って、意味や書き方を調べ、自分のノートを作る。
10. 部分的にしか思い出せなかったので書かなかった
→部分的でもいいので、かける部分は書き、わからなかった部分は〇〇を使うなどできるだけ書くように工夫させる。
11. 古語、文語体の部分に自信がなかった
→ガノ変換や「なり」「ならぬ」「ごとし」などことわざなどに特有の古語を教える。
12. その話題に合致する諺を思いつかなかった
→ことわざの知識を増やし、ことわざの類義語や反意語を集めて、ノートを作成する。
13. 母語の諺はたくさん知っているが、日本語でどう表現するかわからなかった
→ぜひ辞書やウェブサイトを使って、翻訳に取り組み、冊子を作成してクラスメイトに配布してもらう。
14. 日本語の作文で母語の諺を使いたくなかった
→説明的に述べてもよいし、母語のことわざに近い日本語のことわざを探してみるのもよい。
15. 諺の前後の表現や文法がわからなかった
→KOTONOHA や JPWac-L2 などを使って、前後の表現を調べたり、均衡コーパスや日経テレコン、聞蔵Ⅱ（朝日新聞）、ヨミダス歴史館（読売新聞）、毎索（毎日新聞）などのデータベースを使用して例文を集めて、研究する。
16. 辞書にはあったが、日本人がどのくらい普通に使っているのか、その認知度や使用頻が感覚的にわからなかったので、使うのをためらった
→まず、その感覚や配慮について誉め、日本語母語話者にインタビューして聞いてみる活動をクラス全員でやってみる。
18. 難しい言葉を使うと印象が悪くないと思った
→それぞれのことわざなどが、どの程度フォーマルかカジュアルか、どんな時、どんな内容で使えば印象が良いか、教員や日本語母語話者の学生、ホストファミリー、地域の人などに聞いて調べてみる。
世代や性別などによって違いがあるなどの結果が出れば面白い。

さいごに

昨年度から研究を始めるにあたって、ことわざや故事成語、慣用句、四字熟語などは小中学校で学習するものであり、あまり留学生が知る必要もなかろうと思いついてきた。しかし、自身の英語学習を振り返れば、基礎的な文法はできていても、映画やニュースでつまづくのは、イディオムであり、古典からの有名なフレーズであり、日常生活で使われている慣用的な表現が理解できないことで、そこで思考が停止し、他の内容の理解にも影響が及ぶことが多々あるということに思いを巡らせた。日本語学習で初中級が終わって、中級へ上がる時が一つの大きな壁と言われるのは、それまでの基本的な文法では対処できない多くの表現や高度な文法が出てくるからである。その中で、ことわざなどは、学習の対象言語の古い文化や習慣から生まれたものであり、長い年月を経て人々に使い続けられてきたいわば「言葉の宝物」なのである。言語の背景にある文化や人々の生活を理解せずにその言語を学んだとは言えず、たとえ使えたとしても、それは気持ちの、魂のこもった言葉ではない。言葉の力を信じ、言葉によって相手を理解し、学び、教えあい、コミュニケーションの輪を広げていくことは、大変重要である。ぜひ人々の汗水がしみ込んだことわざや慣用表現を勉強し、豊かな日本語を身に付けてほしいと心から願う。

<参考文献>

- ・平井一樹(2020)「日本語教育における諺や慣用句・慣用表現 — 複数の書き言葉コーパスにおける韓国語・中国語母語話者の使用実態から」『韓国文化研究』(3) pp.41-61 韓国文化学会
- ・志賀里美(2018)『YNU 書き言葉コーパス』から見た複合動詞の使用実態：日本語母語話者と韓国人学習者との比較『恵泉女学園大学紀要(30)』125-150,恵泉女学園大学
- ・山口隆正(2018)「日本語テキスト・日本語能力試験(過去問)からみる『「気」の慣用句』の扱い方について」『拓殖大学日本語教育研究(3)』 pp.117-136 拓殖大学日本語教育研究所
- ・北村達也・川村よし子(2017)「新聞記事における慣用表現の出現頻度調査」

『甲南大学紀要. 知能情報学編 = Memoirs of Konan University. 甲南大学編 10(1)』 pp.25-33 甲南大学

- ・内海陽子(2017)『『現代日本語書き言葉均衡コーパス』を利用した上級学習者の文章表現指導の試み—共起表現の自己修正を中心として—』『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』(43) pp.147-160
- ・平井一樹(2016)「上級クラスにおける語彙・表現の習得拡充に関する一考察：慣用表現から難読漢字までを俯瞰・整理する」『大阪大学日本語日本文化教育センター授業研究 (14)』 pp.77-88 大阪大学日本語日本文化教育センター
- ・望月通子 (2012)「日本語教育における学習者コーパスの構築と ICLEAJ」『関西大学外国語学部紀要(7)』 pp.111-119 関西大学外国語学部
- ・寺嶋弘道(2011)「日本語教育におけるコーパスの応用—データ駆動型学習とその実践方法の考察—」『ポリグロシア』(20) pp.91-103 立命館アジア太平洋研究センター
- ・川村よし子・クリスティナ・フメリヤク・寒川(2010)「Web コーパスを活用したレベル別例文検索システムの開発と評価」『ヨーロッパ日本語教育』(14) pp.231-238
- ・李在鎬・浅尾仁彦・濱野寛子・佐野香織・井佐原均 (2009)「タグ付き日本語学習者コーパスの開発」『計量国語学 27(2)』 pp.60-72 計量国語学会
- ・野田尚史 (編集)・迫田久美子 (編集) (2019)『学習者コーパスと日本語教育研究』くろしお出版
- ・前川喜久雄(監修)・砂川有里子(編集) (2016)『コーパスと日本語教育 (講座 日本語コーパス)』朝倉書店
- ・金澤裕之・嵐洋子・植松容子・奥野由紀子・金庭久美子・金蘭美・西川朋美・橋本直幸 (2014)『日本語教育のためのタスク別書き言葉コーパス』ひつじ書房
- ・山崎誠 編著 (2014)『書き言葉コーパス (講座 日本語コーパス)』朝倉書店
- ・武久堅・青木五郎 (2013)『クリアカラー国語便覧』数研出版
- ・国語教育プロジェクト(編著) (2007)『原色シグマ新国語便覧—ビジュアル資料』文英堂

- ・田仲正江・間柄奈保子(1995)『すぐに使える実践日本語シリーズ 8 表現を豊かに生き生き 慣用句(上級)』専門教育出版
- ・田仲正江・間柄奈保子(1994)『すぐに使える実践日本語シリーズ 7 おぼえて便利な 慣用句(初・中級)』専門教育出版

<日経テレコン引用記事> (出現順)

- ・【特集 EV産業革命】-第2章 EVシフトの激流-「脱エンジン」で売り上げ急減 始まった部品会社の生存競争」2021/10/09 週刊東洋経済 p.58 (横山隼也)
- ・「時事深層-「JALアマゾン連合」誕生へ」2013/03/25 日経ビジネス p.14 (佐藤央明)
- ・「外国人、来日足止め37万人、企業の人手不足助長、「閉じた日本」際立つ。」2021/10/22 日本経済新聞 朝刊 p.1
- ・「さまよう異次元緩和黒田体制最長の8年半(中) 円安・株高誘導の功罪、「安いニッポン」助長も。」2021/09/30 日本経済新聞 朝刊 p.9
- ・「ネール首相、再び米に書簡 中共の国連加入、侵略助長せず」1950/07/21 日本経済新聞 朝刊 p.1
- ・「NA TO最大限の団結助長 ジョ大統領表明」1964/12/22 日本経済新聞 朝刊 p.2
- ・「「全固体電池」実用化方針にサプライズ、トヨタの電池戦略はEV時代に競争優位を保つか」2021/10/18 日刊工業新聞ニューススイッチ (政年佐貴恵)
- ・「ロンドンやニューヨークの若者を魅了する「超ミニ住宅」の醍醐味」2016/11/15 ニューズウィーク日本版 pp.54-55
- ・「山口香——柔道、団体戦にみた柔道の醍醐味(千里眼)」2021/08/02 日本経済新聞 朝刊 p.26
- ・「西武園ゆうえんち(埼玉県所沢市)——「昭和の街」何かが起きる、ゴジラの世界も体感」2021/06/02 日経MJ (流通新聞) p.12

研究者紹介（執筆順）

金 泰虎（甲南大学国際言語文化センター教授）

柏原 卓（和歌山大学名誉教授）

平井 一樹（甲南大学国際交流センター特任講師）

2022年(令和4年)3月15日 発行

甲南大学総合研究所

神戸市東灘区岡本8丁目9番1号（〒658-8501）

（非売品）